

研究主題

学力の重要な要素「学習意欲」の
向上を目指す教育活動の展開

— 児童・生徒の学習意欲を高めるために —

平成23年2月
東京都多摩教育事務所

目次

事業の趣旨及び目的
研究主題設定の理由……………1

学習意欲の向上・学習習慣の確立
「学習意欲」についての児童・生徒の現状……………2

各部会の研究……………3

授業改善小・中学校部会 研究の視点……………4

授業改善小学校部会 授業実践例……………6

授業改善中学校部会 授業実践例……………14

学習習慣小・中学校部会 研究の視点……………22

学習習慣小学校部会 授業実践例……………24

学習習慣中学校部会 授業実践例……………32

研究のまとめと今後の課題……………40



事業の趣旨及び目的

多摩地区の教育の改善、振興を図るための提言及び情報提供を行うことを目的として東京都多摩地区教育推進委員会を設置し、運営を行う。

本年度は、多摩地区の各学校に対して、学習意欲の向上や学習習慣の確立に向けた、教師の指導力の向上などを含む教育活動の展開の方向性について、具体的な実践事例を挙げながら提言及び情報提供を行う。

今年度の研究主題

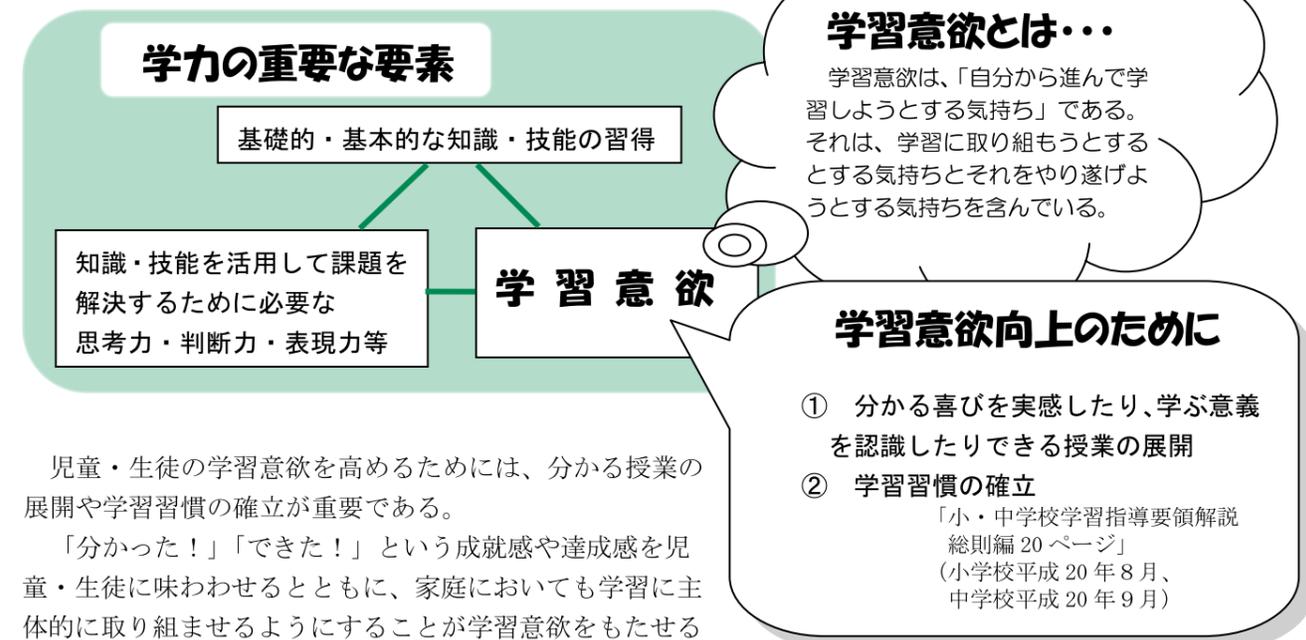
学力の重要な要素「学習意欲」の向上を目指す教育活動の展開

— 児童・生徒の学習意欲を高めるために —

研究主題設定の理由

全国学力・学習状況調査では、学習意欲や学習習慣・生活習慣の確立と正答率には一定の相関関係があることがうかがえる。また、東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査においても、児童・生徒が主体的に学習しようとする意欲を高めるとともに、学習習慣を身に付けさせることが重要であると述べられている。学習意欲が高まれば、学習の効果が期待できる。

また、学力の定義が改正された学校教育法で明示され、平成20年1月17日の中央審議会答申では、学習意欲が学力の重要な要素の一つであるとして、次のように示された。



児童・生徒の学習意欲を高めるためには、分かる授業の展開や学習習慣の確立が重要である。

「分かった!」「できた!」という成就感や達成感を児童・生徒に味わせるとともに、家庭においても学習に主体的に取り組ませるようにすることが学習意欲をもたせることにつながり、学力向上の基盤となる。

そこで、学校における、学習意欲の向上や学習習慣の確立に向けた、教師の指導力の向上などを含む教育活動の展開の方向性について、実践事例を用いて示していく。

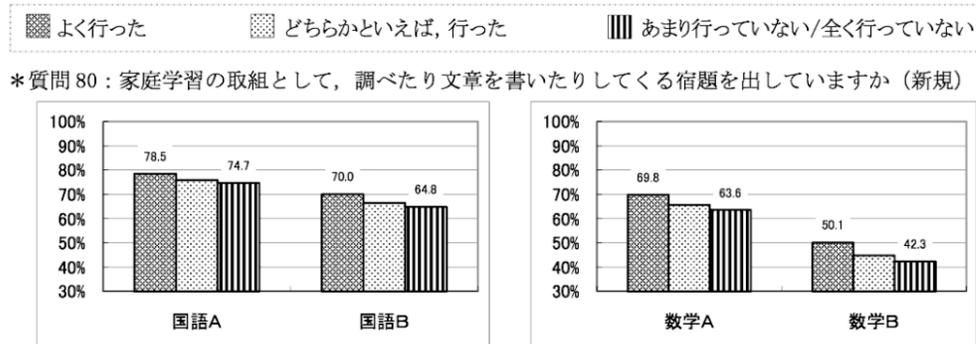
学習意欲の向上・学習習慣の確立（小・中学校学習指導要領解説総則編から）

「学習意欲の向上や学習習慣の確立」については、個別指導やグループ指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導の充実により分かる喜びを実感したり、観察・実験やレポートの作成、論述などの体験的な学習や知識・技能の活用を図る学習活動、職業や自己の将来に関する学習などを通して学ぶ意義を認識したりすることで学習意欲を高めることが求められる。また、特に、小・中学校を通じ、学習習慣を確立することは極めて重要であり、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。

「学習意欲」についての児童・生徒の現状（調査結果から）

〈全国学力・学習状況調査から〉

- 「平成 22 年度全国学力・学習状況調査」において、国語、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたり、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行ったりしている学校の割合に、増加傾向が見られる。さらに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出している学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。



「平成 22 年度全国学力・学習状況調査結果」（中学校）

〈東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における「学習に関する意識調査」から〉

- 小・中学校における学習に関する意識調査では、各教科及び総合的な学習の時間について、授業が分かる要因を質問している。いずれの教科等においても、授業が分かる要因として比較的多く選ばれているものは、次のとおりである。

- ◆ **学習方法等に関するもの**
「自分で調べたり、考えたり、体験したりする」
「自由に考えを話し合い、考えを深める」
- ◆ **児童・生徒の学習姿勢に関するもの**
「自分で課題を選んで学習する」「調べたいことを決めて調べる」
「解き方を考え、進める」「予想して確かめる」
「宿題をきちんとする」……中学校では、「自分で予習や復習をする」
- ◆ **教師の姿勢に関するもの**
「先生の教え方がいい」

学力向上を図るためには、児童・生徒が主体的に学習しようとする意欲を高めるとともに、学習習慣を身に付けさせることが重要である。そのため、宿題等の課題を与える場合には、日々の授業との関連等を十分考慮し、家庭での学習が毎日の学校での学習や生活に役立つ意識をもてるようにするとともに、保護者への説明及び協力を呼びかけるなど家庭との連携を図っていくことが大切である。

各部会の研究

本研究では、「授業改善の在り方」、「学習習慣の確立」の視点から、次の四つの部会を構成した。授業改善部会においては、単元及び1単位時間の授業改善に向けた視点について、学習習慣部会においては、学習習慣の確立に向けて、授業と家庭学習の関連の明確化について、研究を進めた。

授業改善小学校部会

児童が学習した内容を振り返る場面を学習過程の中で適切に設定し、振り返りを生かした指導の工夫について検討することは重要であると考え、次の視点から、授業を構想し、実践を通して検討を行った。

- 【視点1】 学習意欲の高まりを見取る
- 【視点2】 振り返りを指導に生かす

授業改善中学校部会

生徒が見通しをもって学習に取り組むためには、学習内容、学習方法を理解していることが必要であり、授業の導入やまとめの段階で、生徒が学習方法を習得するための指導を工夫することが重要であると考え、次の視点から、授業を構想し、実践を通して検討を行った。

- 【視点1】 学習の見通しをもたせる
- 【視点2】 課題解決に向けた学び方を確認させる

学習習慣小学校部会

授業と家庭学習を結び付け、家庭学習の意味や意義を児童に理解させることで、学習習慣が定着し、学習意欲が高まると考え、次の視点から、授業を構想し、実践を通して検討を行った。

- 【視点1】 家庭学習と結び付けた授業の構築
- 【視点2】 家庭学習に主体的に取り組む指導の工夫

学習習慣中学校部会

「授業」、「家庭学習」、「授業」というサイクルで継続した指導を充実させることで、生徒に学習習慣が定着し、学習意欲が高まると考え、次の視点から、授業を構想し、実践を通して検討を行った。

- 【視点1】 家庭での学習課題の課し方の重視
- 【視点2】 学習習慣の確立に向けた授業の構築

授業改善 小・中学校部会 研究の視点

児童・生徒の学習意欲を高めるために、小学校部会では、児童が学習した内容を振り返る場面を設定し、その振り返りを生かした指導の工夫を中心に、また、中学校部会では、授業の導入やまとめの段階で、学習内容・方法を習得するための指導の工夫を中心にして研究を進めてきた。

小学校部会 学習の振り返りから改善を図る

見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

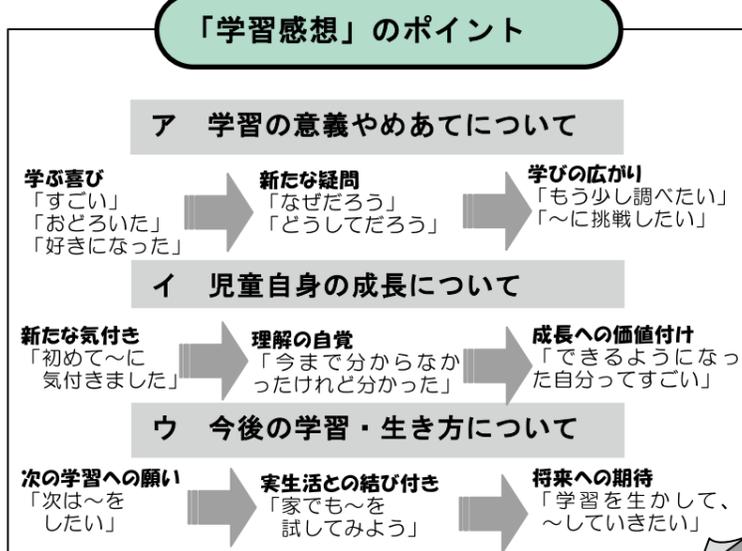
中学校部会 学習の見通しから改善を図る

視点1

学習意欲の高まりを見取る

- 児童の「学習感想」の分析に基づいた学習意欲の見取り

学習感想の活用

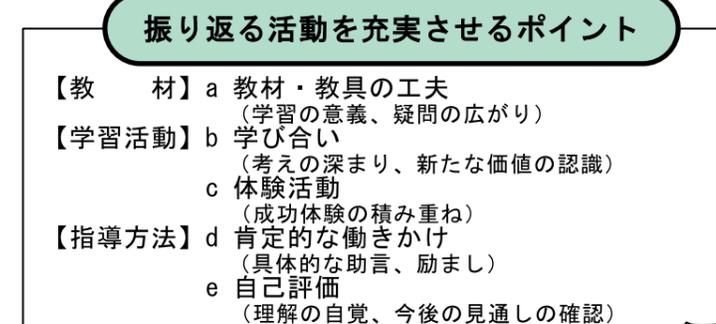


視点2

振り返りを指導に生かす

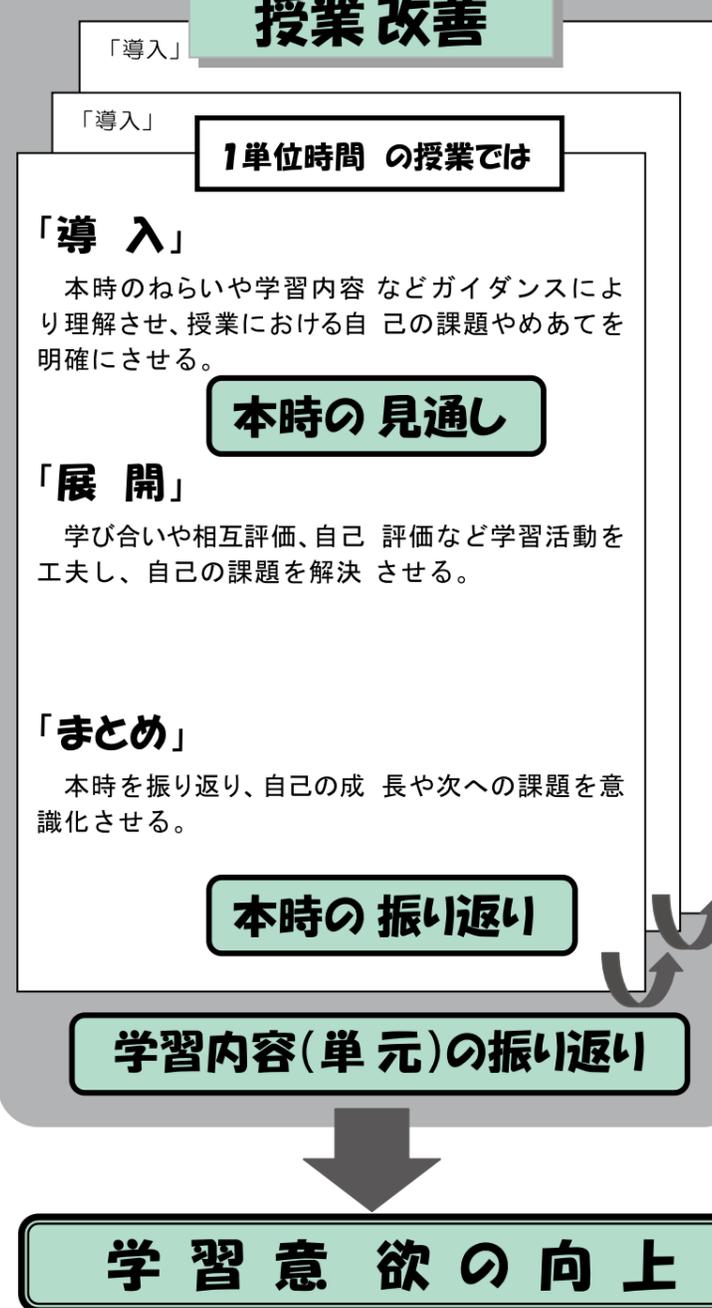
- 学習過程の特質に応じた振り返り
- 振り返りの目的の明確化

振り返る場面の設定



学習内容(単元)の見通し

授業改善



視点1

学習の見通しをもたせる

ガイダンスマニュアルの活用

- 本単元(時)の学習のポイントと次時への予告
- 学習の流れを細かくつかむ

ガイダンスマニュアルの項目

- 単元のねらい
- 単元の流れ(学習スタイル、めあて、学習内容、例題、学習課題など)
- 身に付ける力
- 単元のまとめ

単元全体の学習内容の見通し

視点2

課題解決に向けた学び方を確認させる

学びシートの活用

- 学習のねらいに沿った個々の課題の設定
- 本時の学習成果など、次時に向けた記録

学びシートの項目

- 授業で分かったこと、つまづいたこと
- 疑問に思ったこと、調べてみたいこと
- 授業を振り返り、感じたこと考えたこと

学習内容・方法の確認

小学校 国語(第4学年)

学習過程に応じた振り返りの場면을工夫 する

単元名 「アップとルーズで伝える」「4年3組から発信します」

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けるようにする。

単元の流れ(全15時間)

時	学習活動	「学習感想」のポイント
① ⑤	「アップとルーズで伝える」を通読し、文章の内容を大きくつかみ、学習の見通しもつ。 ①～⑧段落を読み、段落の関係を読み取る。	アップとルーズの取り方や使い分けから新たに疑問をもつ。(ア) アップとルーズの意味と長所・短所、使い分けを理解する。(イ)
⑥	「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しをもち、記事の工夫を考える。	記事の中から題、見出し、リード文、写真の工夫を理解する。(イ) 正確に伝えるために情報を集めることの必要性を理解する。(イ)
⑦	記事の一部から想像して記事を書き、自分の記事と新聞記事の違いを比べる。	見出しやリード文の役割を理解する。(イ)
⑧ ⑨	第7時で書いた自分の記事を直す。 見出しやリード文の役割を考える。	記事を書き、直す経験から、自分の記事に必要なものを考え、記事に生かそうとしている。(ウ)
⑩ ⑪	取材計画を立て取材方法を考える。 記事にする事柄を考え、構成を意識して下書きする。	取材の仕方、メモの取り方、取材について理解する。(イ)
⑫ ⑬ ⑭	記事の清書をする。 書いた記事を読み返し、推敲する。(本時13時)	自己評価、友達からのアドバイスを自分の記事に生かそうとする姿勢をもつ。(イ) 内容の選択や表記の仕方等、記事を書く時のポイントを理解する。(イ)
⑮	記事をみんなで読み合い、感想を出し合う。	新聞記事の工夫に気づき、今後新聞を読むとき、書くときに自分の生活に生かそうとする姿勢をもつ。(ウ)

振り返る活動を充実させるポイント(第13時)

記事のよいところを振り返り、さらに分かりやすい記事にするためにはどうしたらよいかを考えさせる。

e 自己評価 (1単位時間の前半と後半に設定)
前半…チェックポイントを基に振り返らせる。
後半…アドバイスの内容も含めて振り返らせる。

b 学び合い (グループでのアドバイスの交流)
分かりやすい記事にするため、より多くの視点に気付かせる。

[本時] (13時間 / 15時間) ○活動 ・児童の反応 ◎手だて

「学習感想」のポイント(第13時)

- ・自分で振り返ったり、友達からアドバイスをもらったりしたことを生かし、分かりやすい記事にするための工夫に気付かせたい。(イ)
- ・記事を書く場合の見出しやリード文等の大切さを考えさせたい。(イ)

①本時のめあて、流れの確認

記事を読み合い、よりよい記事になるようアドバイスし合おう

②自分の記事を読み返し、内容の足りない部分、修正する部分がないか確かめる。

- ・言葉が難しく、記事が分かりにくくなってしまった。
- ・見出しやリード文があまり目立っていない。
- ・自分の感想が入っていなかった。
- ・読む相手のことをあまり考えずに書いてしまった。

◎チェックポイントをもとに、記事の内容を自己評価する。(e 自己評価)

③グループで記事を読み合い、記事をよくなるためのアドバイスをし合う。(交流タイム)

- ・自分の記事で工夫したところを認めてもらえた。
- ・自分では気付かなかったけど、もっと工夫した方がいいところが分かった。



◎記事を読み、アドバイスを付箋に書き、交換し合う。(b 学び合い)

④友達のアドバイス、自分の記事を再び読み返し、記事をよくなるために必要なことを考える。



⑤今日の振り返りとして学習感想を書く。(振り返りタイム)

- ・伝えたいことをはっきりと伝えるために、取材したことの中から一番伝えたいことをしぼって書くようにする。
- ・読む人が知りたい内容かどうか、読む人の気持ちになって書くと思う。
- ・見出しやリード文を工夫すると、読みたいと思える記事になると思った。
- ・自分の思いや考え、感想等を入れた方が、読む人に気持ちが伝わると思う。

◎自分の考えと友達からのアドバイスを再確認し、記事の内容を推敲する。(e 自己評価)



児童の変容(学習感想から)

〈A児/第6時〉
見出しや写真の工夫が分かった。 題や見出しだけでなく、記事も大きくしたらいいと思う。(ア)

第6時では、見出し写真の役割についての理解にとどまっていたが、第15時では、記事を書く時に気を付けたい点や次の単元への意欲についての記述が見られるようになった。



〈A児/第15時〉
読みやすくするためには難しい言葉を使わず、**自分の言葉で書く**ようにしたい。また、**書くことは1つにして細かく調べて書く**と伝えたいことがはっきりしていいと思った。次の機会に書くときも**アドバイスを生かしたい**。(ウ)

振り返りを生かして

学習感想から(第13時)
友達とアドバイスし合ったことを生かしたら、記事が分かりやすくなるのが分かった。この学習をするまでは、文章を書くのが得意ではなかったけど、**記事を書くことが好きになった**。
最初は分からなかった**見出しとリード文の工夫**が、読む人の立場になるととても重要なことなだと気付いた。(イ)



振り返る活動を充実させるポイント(第14時)

- a 教材・教具** (キーワード短冊)
- ・単元全体の学習を通して、学習課題のポイントをキーワードとして示したことで、学習したことを生かした記事が書けるようにする。
- e 自己評価** (記事内容の振り返り)
- ・記事の内容を自分とのかかわりについて振り返らせることで、学習した内容を自分の生き方に生かそうとする姿勢につなげる。

小学校 社会(第6学年)

「学習感想」の分析を指導の手だてにつなげる

単元名 「新しい時代の幕あけ」

黒船の来航、明治維新、文明開化などについて、年表や絵画、文章資料など各種資料を活用して調べ、我が国が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにする。

単元の流れ(全7時間)

- 幕末と明治にかけての世の中の変化や明治維新について興味をもつ。
- 日本が不平等条約を結ばされたことを知り、学習問題を立てる。
- 開国による人々の暮らしの変化や、武士の世の中が終わっていく経緯をとらえる。
- 明治政府がどのような国づくりを目指したのか、その特色が分かる。
- 明治政府が、西洋諸国に追いつけるような国づくりを目指したことを知り、それに従事した人の思いを考えることができる。
- 新しい時代になって西洋風のものや考え方が多く取り入れられたことが分かる。
- 単元全体を振り返り、学習問題について自分の考えをまとめる。

《本 時》

児童の変容(学習感想から)

〈A児／第2時〉
開国をしたことは、今の日本にとってはプラスだから賛成だけど、ぼくが昔の人だったら反対だ。外国と戦うということも考えた方がいい。(ア)

第2時では、開国について一面的な見方しかできなかったが、主体的に見つめることができるようになり、A児も考え方の変容を自覚していた。
さらに、人物の思いにふれ、自分の生き方に生かそうという姿勢が見られるようになった。



〈A児／第7時〉
もし開国をしなければ、外国文化は進み、日本だけ置いていかれたら。そうすれば結局戦争でも負け、日本という国はなくなっていたら。(イ)
ぼくは今日の授業からどんなに反対されても誰かの役に立つなら、やり続けること、正しいと思ったらやりとげることが大切だと思った。(ウ)

前時までの学習から

「学習感想」のポイント(第4時)

・開国後、江戸幕府が倒し、明治政府による明治維新が行われ、世の中が変化していったことについて理解させたい。(イ)

学習感想から(第4時)

明治政府は地租改正や廃藩置県など、様々な改革に取り組んだことが分かった。

しかし、実際は国民の負担や反感も多かったと思う。

この後の国の変化や明治政府の考えについて詳しく調べたいと思った。(イ)

〈感想の分析〉

明治政府の行った諸改革の取組や国民生活の様子の変化してきたことについて理解している。

明治政府がどのような目的や思いで、国づくりを行ったのか考えさせる必要がある。

振り返る活動を充実させるポイント

a 教材・教具 (鉄道錦絵・鉄道開通物語の提示)

人物の苦労話などのエピソードから、当時の出来事を身近に感じさせるとともに、伊藤博文や大隈重信の考えや思いに気付かせる。

b 学び合い (予想の交流)

鉄道が設置された場所や描かれている人物の様子に着目させ、伊藤博文や大隈重信が鉄道を開通させた意図や人々の気持ちを考えさせる。

〔本時〕 (5時間 / 7時間)

「学習感想」のポイント(第5時)

・明治維新が富国強兵という一つのテーマを掲げて行われたものということを総括的にとらえさせ(イ)、伊藤博文・大隈重信の業績からその生き方についても考えさせたい。(ウ)

○主な学習活動 ・児童の反応

◎手だて

- 前時を振り返り、本時の課題を確認する。
明治政府はどのような思いで、明治維新を行ったのだろうか。
- 鉄道錦絵(東京～横浜間)を見て、学習問題についてかかわることで気が付いたことや疑問に思ったことを話し合う。
・産業が発展してきてみんな喜んだのではないかな。これは国民のためになっているはず。でも、お金もきつとかかっているだろうから、国民は反対したのではないかな。
- 鉄道開通について調べ、考えたことを話し合う。
・資金の確保や、土地の問題など大変なことを乗り越えてようやく鉄道を開通させたんだ。そのおかげで世界でも例を見ない、海上を走るすごい鉄道ができたんだね。
- 何のために鉄道を造ったのか、鉄道が開通したときの大隈重信と伊藤博文の思いや願いを考え、学習感想を書く。
・伊藤博文や大隈重信の努力によって世界で例を見ない海の上を走る鉄道を開通させることができたことが分かった。また、富国強兵で国をより豊かにしたことが分かった。(イ)
・前の時間まで、明治政府は国民に負担を与え、江戸幕府と変わらないと思っていた。しかし、明治政府は国民のためを思って熱く燃え、不平等条約を改正するという目標に向かって努力していた。ぼくは、明治政府を応援したいし、あきらめずに鉄道を開通させた二人を見習いたい。(ウ)

◎鉄道錦絵を提示し、児童の興味・関心を引く。(a教材・教具)

◎予想の交流をし、考えの幅を広げ、調べる目的を明確化する。(b学び合い)

◎文書資料「鉄道開通物語」(明治初め頃、苦難を乗り越えて鉄道開通をさせる伊藤博文・大隈重信)を読ませ、明治政府の富国強兵に向けての強い思いを考えさせる。(a教材・教具)



振り返りを生かして

学習感想から(第5時)

伊藤博文・大隈重信が努力してくれたおかげで、鉄道ができ、当時の国民も喜んだことだろう。

明治政府は、産業の発展を中心に新しい国を作ろうとしたのだと思った。(イ)



振り返る活動を充実させるポイント(第6時)

富国強兵の意味や目的を、もっと広い視野でとらえさせる必要がある。

b 学び合い (既習内容の振り返り)

次時の導入で、明治政府の考えである富国強兵について資料を活用して再確認する。

a 教材・教具 (明治の初め頃の写真、福沢諭吉の人物年表等の提示)

欧米の文化を取り入れることによって、いろいろな分野で近代化を進めたことに気付かせる。

前時までの学習から

「学習感想」のポイント(第5時)

- ・単位量あたりの考えを使うと、2つの数量を比べられることを考えさせたい。(ア)
- ・2つの数量の関係を数直線等で表し、分かりやすく説明させたい。(イ)
- ・単位量あたりの量は生活の中で多く使われていることに気付かせたい。(ウ)

学習感想から(第5時)

・1単位量あたりの量が分かれば、いろんなことが比べられてすごい。(ア)



〈教師のコメント〉「いろんなこと」とは、どんなことですか？

→「こみぐあい」以外にも単位量あたりの考え方を活用させたい。

学習感想から(第5時)

・広さのちがう2つの部屋のこみぐあいの比べ方が分かってよかった。(イ)



〈教師のコメント〉生活の中ではどんな場面に使えそうですか？

→生活の中の具体的な場面で、単位量あたりの考え方を活用させたい。

「わかったこと」を詳しく記述させるとともに、内容をより具体的にしたい、視点を広げたいして「学習感想」の質を向上させる。

学習感想番付

★主語、述語を付ける。50文字以上。

【わかったこと】

前頭 学習のポイントをまとめることができる。

【思ったこと】

小結 おどろき、感動について書く。ぎもんに思ったことを書く。

開 閉 自分の考えと友達の考えを比べたり、それぞれのよさを見つけて書いて書くことができる。

大 開 生活のどんなところで、学習したことが使われているか、くわしく書くことができる。

横 網 学習したことを生活や他の勉強でどのように生かせるか、たとえを入れて書くことができる。

「学習感想」に向けた支援として

- ①学習感想の視点を示す。「何を書くかこの中から選んでみましょう。」
- ②本時の学習のポイントを示す。「自分の考え方と友達の考え方を比べてみましょう。」
- ◎「学習感想番付」を拡大して掲示し、いつでも見られるようにする。

振り返る活動を充実させるポイント

- c 体験活動 (早口言葉の体験)
- b 学び合い (解決方法の比較、話し合い) 自分の考え方と友達の考え方を比較・検討することで、それぞれの方法のよさに気付かせる。
- a 教材・教具 (「学習感想番付」の活用) 学習感想に向けた具体的な支援として、学習感想の視点を与える。

[本時] (6時間 / 11時間)

「学習感想」のポイント(第6時)

- ・単位量あたりの大きさを使えば、秒数と文字数がちがっても速さを比べることができることをとらえさせたい。(イ)
- ・2つの比べ方のそれぞれのよさがあることに気付かせたい。(イ)

①早口言葉を聞こう

再生速度を変えることのできるテープレコーダーを用意し、通常の速さ → 遅い → 速いと速さを変える。(a教材・教具)



②早口言葉を体験しよう

200文字の早口言葉を何秒で言えるか、全員で競う。(c体験活動) 速く言える児童3人を選び、全員の前で言う。時計を大きく表示し、全員で時間を計測する。

③だれが一番速いだろうか

問題:「Kさんは20秒間で200文字言いました。先生は10秒間で90文字言いました。どちらの方が速く言うことができるだろうか。」

④どちらの比べ方がわかりやすいかな?

2通りの考え方を出し、それぞれの良さを比較・検討する。(b学び合い)

〈1秒間あたりの文字数で比べる〉
 $200 \div 20 = 10$ 1秒間あたり10文字
 $90 \div 10 = 9$ 1秒間あたり9文字
 Kさんの方が1秒あたりに言った文字数が多いため、Kさんの方が速い。

〈1文字あたりにかかった時間で比べる〉
 $20 \div 200 = 0.1$ 1文字あたり0.1秒
 $10 \div 90 = 0.11$ 1文字あたり0.11…秒
 Kさんの方が1文字を言う時間が短いから、Kさんの方が速い。

⑤学習を振り返り、「学習感想」を書きましょう

(a教材・教具) 今日のおどろいたことと2つの考えのよさを書いてみましょう。

先生の方が速そうだけど本当はどうなのだろうか?



児童の変容(学習感想から)

〈A児/第2時〉

こみぐあいを比べるやり方には2つあって、それぞれよい点があったのすごーいと思った。(ア)

第2時で学習感想の視点を与えると、その視点を意識して感想を書くようになった。

第6時では、学習内容の広がりや新たな課題について感想が書けるようになってきている。

〈A児/第6時〉

「速さ」の比べ方が分かった。1分間あたり、1時間あたりでも同じ考え方でできるかどうかやってみてほしいと思った。(イ) いろいろな速さを比べてみたい。



振り返りを生かして

学習感想から(第6時)

〈B児〉速さも、こみぐあいと同じように1単位量あたりの量が分かれば比べることができることが分かった。(イ) 〈C児〉早口言葉は先生の方が速く言えていると思ったのに、比べてみたらKさんの方が速いことに気付きました。(イ)

今日は「前頭」の内容が書けましたね。次は「小結」に挑戦してみましょう。

他にはどんなことに気付きましたか。「学習感想」にも書いてみましょう。

〈D児〉最初は、どちらが速いのか分からなかったけど、速さの比べ方が分かってうれしかった。(イ)

比べ方が分かってよかったですね。次の時間は、どんな学習に挑戦したいですか。

振り返る活動を充実させるポイント(第7時)

体験活動や速さの比べ方に対する感想が多かった。いろいろなものの速さを比べたいという記述も出てきているので、生活の中でどのように活用しているかという意識をもたせる。 c 体験活動 (自転車が進んだ距離とかかった時間の関係、100m走のタイムから等)

小学校 特別活動(第6学年)

活動全体の振り返りを通じて児童の成長を促す

活動名 「子ども市を大成功させるための計画を立てよう」
互いのよさを生かし、信頼し支え合って、自分の活動に自信がもてる集会活動をつくることができるようにする。

活動の流れ(全9時間)

① 話し合い活動
話し合いの柱
「子ども市で何を
するか」

② 話し合い活動
話し合いの柱
「劇の内容を決め
る」

③ 話し合い活動
話し合いの柱
「当日までの係を
決める」

④ 話し合い活動
話し合いの柱
「係活動の発表を
しよう」

⑤⑥⑦係活動
5つの係(台本・宣
伝・大道具 小道具・
ショップ・ゲーム)
で活動する。

⑧⑨係活動
当日の係(劇団員・
受付・音響照明・シ
ョップ)に分かれて
活動する。

実践活動(4時間)
子ども市当日
前半・後半に分かれ
て活動する。

〈学校行事〉

児童の変容(学習感想から)

〈A児/第9時〉
リハーサルをして、直す
ところをたくさん見付け
た。明日は、お客さんが楽
しんでくれるようにがんば
る。

「子ども市」のめ
あてを大切に活動
することができた。
活動を通して自
分にどんな力があ
ったのか自覚して
いる。
これからの活動
に生かせるように
したい。



〈A児/実践活動・終了時〉
最後の「子ども市」は大成功だった。今
までにない最高のお店ができてよかった。
子ども市を通して、計画的に活動する力
が身についたと思う。今度は卒業式でこの協
力、チームワークを生かしてがんばりたい。
(ウ)

前時までの学習から

「学習感想」のポイント(第3時)

- ・提案理由を大切に、自分の考えをもたせたい。(ア)
- ・実際にやる時のことを考えて、意見を言えるようにさせたい。(ア)
- ・今までの、失敗や経験をもとに考えさせたい。(ア)
- ・「子ども市」までの計画を立て、見直しをもって活動させたい。(イ)

学習感想から(第3時)

「子ども市」当日のことを考
えながら係の仕事考えた。ア
ドバイスを生かして、「子ども
市」を成功させたい。(ア)
希望していた「宣伝係」にな
れてよかった。次の話し合いま
でに何を考えるのかを考えたい。
(イ)



振り返る活動を充実させるポイント

- a 教材・教具** (子ども市チャレンジカードの活用)
係ごとに「子ども市チャレンジカード」を作成し、計画的に活動できるようにさせる。
- b 学び合い** (学級会カードの記入)
他の係のよい点や自分の係に生かしたい点について整理しながら記入させる。
- d 肯定的な働きかけ** (終末の助言)
本時の話し合いでよかったことを具体的に賞賛し、子ども市への期待感を高める。

〔本時〕(4時間/9時間)

①はじめの言葉

②司会グループの紹介

③今日の議題

「子ども市」を成功させるための計画を立てよう～係活動の発表～

④提案理由の説明

⑤話し合い・係ごとの発表

子ども市チャレンジ
カードの活用
(a教材・教具)

係で話し合っ
て計画を立て
たことが実行
できてよかった。
次の活動も確
かめておきたい。

⑥話し合いの振り返り (学習感想を書く)

学級会カードの記入
(b学び合い)

他の係の発表を聞いて、よい点
が見つかった。計画的に進めて
いるところなど参考にしたい。

⑦先生の話

終末の助言
(d肯定的な
働きかけ)



商品のことを一生懸命考
えていましたね。今までにない
商品になりそうなので、とて
も楽しみです。

⑧終わりの言葉

「学習感想」のポイント(第4時)

- ・他の係の工夫しているところ、こうするともっとよくなる
ところを見付け、自分たちの係に生かすことができるようにさせたい。(イ)

今までの一番楽しい 今までにない 学校で一番のお店をつくらう！
子ども市 チャレンジカード

自分のテーマ	日()	日()	日()
今日のめあて (どんなことをするのか 具体的に)	今日のめあて	今日のめあて	今日のめあて
振り返り (自分や、友達の上だったところ、 次の時間にやりたいこと など)	振り返り	振り返り	振り返り
	日()	日()	日()



振り返りを生かして

学習感想から(第4時)

劇係の人が話の流れを説明してくれて
いたし、時間設定も細かく考えていて
すごいと思った。(イ)
アドバイスや、質問をしたらわかりや
すく答えてくれた。他の係は、しっ
かり計画を立てているんだと思
った。(イ)
ショップや宣伝係の人が、実際に作
ったり、やってみせていたりして
いたので分かりやすかった。自分
たちもやってみよう。(イ)



振り返る活動を充実させるポイント(第5時)

a 教材・教具

- (子ども市連絡ボードを活用)
- ・係の進行状況を掲示する。
- ・活動のよさを具体的にコメントする。

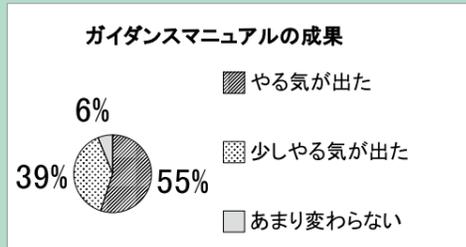


e 自己評価 (学級会カードの自己評価欄を活用)

- ・1単位時間ごとに自己評価欄の項目を工夫し、自分の活動のよさや今後の係活動の見直しについて確認させる。

ガイダンスマニュアルの活用

- これから学ぶ内容をイメージし、事前に計算練習を反復するなど、授業で行う学習内容の見通しをもたせる。
- 等式から移項、小数及び分数の方程式へと学習の内容や流れを事前に理解させ、生徒の関心・興味を一層高める。
- 既習事項について、復習の計画づくりに役立たせる。



学習意欲の向上 (生徒の声)

- 方程式の単元では、毎回どんなことを勉強するのか分かるので予習・復習に役立った。
- 計算式の例が学習する時の目安になった。

ガイダンスマニュアル

1 単元のねらい
(1) 今までの学習の内容を活用し「方程式」を解くことができる。
(2) 文章の中の数量を方程式におきかえて、問題を解くことができる。

2 単元の流れ

時間	ねらい	例
第1時	○てんびんの性質が分かる。 ○文章から等式をつくれる。	てんびんの左に x g 2個と 1 g をのこりに 9 g をのせたらつりあった。等式をたてよ。
第2時	○文章から不等式をつくれる。 ○不等号の違いが分かる。	x を 4 倍して 5 を加えた数は 17 より大きい。不等式をつくれ。
第3時	○解の意味が分かり、あてはめて解を求められる。	1, 2, 3 のうち $2x+5=9$ の解はどれ?
第4時	○等式の性質が分かる。 ○簡単な方程式を解ける。	① $x-2=5$ ② $x+8=2$ ③ $\frac{x}{3}=4$ ④ $-5x=40$
第5時	○移項をつかって方程式が解ける。	$3x-2=4$ を解け。
第6時	○かっこ、小数の方程式が解ける。	$3(x-7)+2x=4$ を解け。
第7時	○分数の方程式が解ける。	$\frac{1}{3}x-4=\frac{1}{5}x$ を解け。
第11時	○比例式が解ける。	$x:12=3$

3 身につける力
(1) 態度⇒意欲的に取り組む
(2) 数学的な見方や考え方⇒解き方の手順を考える
(3) 表現・処理⇒正確に、手順通りに解く
(4) 知識・理解⇒学習のねらいや、解き方を理解する

問題の例を載せることで、授業で行う学習内容の見通しをもたせることができました。

観点別に、何を頑張ればよいか分かります。

学びシート

9月30日 (木) 11時

①前の時間に「学びシート」をもとに、今日の授業のめあて(がんばりたいこと)をかきましょう。

今日も等式の性質がわかるようにする。

教師のアドバイスから、授業内容についての具体的な成果と課題が書けるようになりました。

振り返りタイム(授業のおわりにかく)

②今日の授業の成果(わかったこと)

等式の性質のやり方がわかった。今日は、性質をつかって方程式が解ける事がわかった。たんたん分かるから楽しかった。

③今日の授業の成果を見て、次の授業への課題(次の授業で頑張ることや、それまでにやっておくべきこと)をかきましょう。

移項というものが、わかるようになった。

④今日の授業の理解度 わかった だいた

⑤今日のやる気 やる気だ 普通

先生から一言

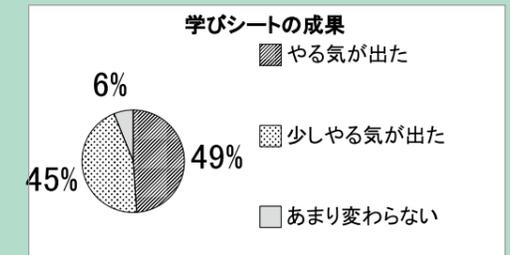
等式の性質は方程式の解き方のもと。しっかり復習ね。

本時の課題や次時の学習を意識して書けるようになりました。

教師からの一言が個に応じた指導となります。

学びシートの活用

- 積み重ねを通して、前時における自己の課題を明確にし、学習を進めていく。
- 今日の学習内容を振り返らせ、復習や次時への準備をさせる。
- 自主的な計画で、学習意欲を高めさせる。



学習意欲の向上 (生徒の声)

- 授業のめあてを決めることが、学習の興味につながり、すごく授業が楽しくなった。
- 最後に、方程式について自分の理解がどうだったか考えられた。
- 自分でめあてを決めることで、それに向かって頑張ろうと思えるようになった。

本時の導入

- 今日の授業の見通しをもたせるために、分かりやすく学習の流れを説明する。
- ガイダンスマニュアルで、既習事項を確認するとともに、学びシートを活用し、前時の課題をもとに本時のめあてを記入させる。

見通しをもつ (本時のめあて)

- どの問題の時に、どの性質を使うか分からなかったから今日はできるようにする。
- 前回分からなかった等式のところを分かるようにする。
- 前に習った等式の性質を生かして、解き方を工夫してみたい。

本時の展開

(4時間/11時間)

展開前段

- 前時を振り返り、等式の性質を使った方程式の解き方を確認する。

展開中段

- $2x+1=9$ を解き、等式の性質をどう活用したかを 確認する。

展開後段

- 学んだことを生かし、演習問題を解く。

授業改善の視点

○学びシートの活用

- 生徒の理解状況の把握

○個に応じた指導

- 解き方のアドバイス
- 個別の問題の提示

○解き方の支援のカードの活用

- 解決へのヒントとして提示

第3時の数字のあてはめを思い出してみよう!

本時のまとめ

- 学びシートに今日の「成果」と「次時への課題」を記入させる。
- 次回の内容(もっと計算を簡単にする方法を考えよう「移項」)に触れ、学習の予告をし、次時への見通しをもたせる。

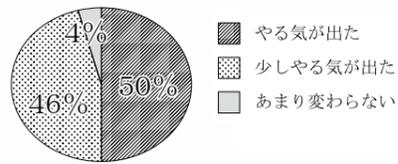
学習の成果 (学習意欲)

- 今日の方程式は、次の時間にはもっと工夫して簡単にできそうだった。
- 前の授業をよく思い出せた。もっと計算が早くできるように復習する。
- 次は小数の方程式について予習して、正確にできるようにしてくる。

ガイダンスマニュアルの活用

- 理科の実験の、仮説を立てる場面において、学習の見通しをもって学習に取り組ませる。
- 単元の途中で復習のプリントを行うことなどを予告し、単元の内容や流れを事前に示すことで意欲を高めさせる。

ガイダンスマニュアルの成果



学習意欲の向上 (生徒の声)

- 学習する内容がはっきりしていて、いつ取り組むかがよく分かった。
- ガイダンスマニュアルで理科に関する不思議や疑問が示されており、授業に興味をもてた。
- 単元の流れが特に分かりやすく、予習がしやすくなった。

本時の導入

- 前時の復習を交えて本時の学習の流れを説明する。
- 演示実験(電池にプロペラモーターをつなげた装置)を例示し、エネルギーの移り変わりについてめあてを考えさせる。

見通しをもつ(本時のめあて)

- 予想をしっかり考えて、エネルギーの移り変わりを調べる。
- エネルギーの種類(既習事項)を思い出しながら、実験に取り組む。
- エネルギーについてもっと詳しく知りたい。
- 手回し発電機を正しく使って実験する。

ガイダンスマニュアル 第1章 いろいろなエネルギー

- 単元のねらい
 - さまざまな種類のエネルギーを知るとともに、関係しているか理解する。
 - 理科でいう『仕事』や『仕事率』について理解
- 単元のながれ

時間	内容	例	(補助教材)
①	「エネルギーを持っている」とは？ 位置エネルギーと運動エネルギー	身のまわりにある「エネルギー」の例をあげてみよう	教p62 p64
②	【実験】 高い位置にある小球がもっているエネルギーを調べよう	転がす小球の高さや質量を変えると、エネルギーはどのように変化するか？	教p63 理p20
③	【実験】のまとめ 『仕事』の表し方を理解しよう	Aさん：100gの物体を1m持ち上げた Bさん：50gの物体を2m持ち上げた Cさん：100gの物体を2m持ち上げた 一番仕事をしたのは？	教p64 補p10 理p22
④	『仕事率』についてまとめる	15kgの荷物を1m持ち上げるのに10秒かかるAさんと30kgの荷物を2m持ち上げるのに10秒かかるBさん、仕事率がいいのは？	補p12 理p24
⑤	【実験】 道具を使ったときの仕事を調べよう	おもりを引き上げる時、 ①直接引き上げる②定滑車を使う③動滑車を使う場合、仕事の大きさは変わるか？ てこを使うと10kgの石を50Nの大きさの力で持ち上げることができた。この石を40cm持ち上げるにはこの端を何cm下げればよいか？	補p13 理p24
⑥	【実験】のまとめ 『仕事の原理』についてまとめる		補p14・15 理p24
⑦	復習プリント	これまでのまとめ・演習	
⑧	位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わり	ジェットコースターはどうやって動いているか？	教p66・67 理p26
⑨	【実験】 いろいろなエネルギーの移り変わり	手回し発電機を使って、運動エネルギーが電気エネルギーに変換されることを調べる	教p68・69 理p28
⑩	【実験】のまとめ いろいろなエネルギーの移り変わり エネルギーの保存	・スピーカーは何エネルギーを何エネルギーに変換しているか？ ・TVをつけっぱなしにすると熱くなるのはなぜ？	71
⑪	エネルギーの単位	ちがう種類のエネルギーで表すのが？	
⑫	復習プリント	これまでのまとめ・演習	

- 身につける力
 - 関心・意欲・態度⇒エネルギーなどについて進んでかわり
 - 科学的な思考⇒実験の結果から自分の考えをまとめる。仕事
 - 実験・観察の技能表現⇒実験を正確に手順通り行い、結果をまとめる
 - 知識・理解⇒学習のねらいを把握し、エネルギーや仕事について正しく理解する。

例を載せたことで、内容のイメージが湧くようになりました。

内容の該当する教材のページを示し、学習計画に役立ちました。

学びシート

3年 理科 学びシート 第1章
毎時間、見直しを持って学習することが出来ます。学習カードを見直し
計画タイム(授業のはじめに書く)
10月 18日 (月)

①前の時間に書いた「学びシート」身につけたいことをかきましよう。
実験を通して分かることを具体的に
...
自分で実際にやってみて、体感する。
...
家で協力して実験をする。

振り返りタイム(授業のおわりに書く)
②今日の授業の成果を書きましよう
Aつの実験をやってみて、実際に見て分かったことや
実験で分かったことがたくさんあったのでよかった。片付けまで
...
今日やったことを次回までに覚えている。
この今日のがんかきをしておく。

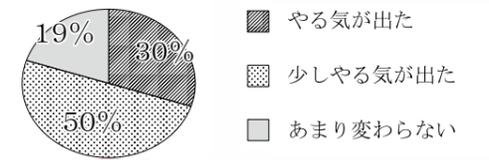
④今日の授業の理解度 わかっただいたい
⑤今日のやる気 やる気が出た
ここから(考察) どのよう

成果や課題を確認することによって、自己の課題が明確になるとともに、次時の意欲が高まりました。

学びシートの活用

- 前時の内容を振り返り、自ら「めあて」を決めることで、主体的に学習に取り組むことができる。
- 本時の学習内容を振り返らせることで、自分の理解度を確認し、必要に応じて復習や次への準備をさせる。

学びシートの成果



学習意欲の向上 (生徒の声)

- 自分の課題を見つけて実行するために「めあて」を決めたことで、授業が受けやすくなり、今日のやることがよく分かった。
- 次回までに課題をできるようにしておこうという気になった。
- 実験の結果から、改めて自分がその時間にできたところと、やり直すところを考えることができた。

9時間/12時間

本時の展開

展開前段 実験の説明 仮説を立てる	展開中段 準備・実験・片付け	展開後段 結果の確認 各自【考察】
<ul style="list-style-type: none"> 情報機器を活用し、視覚的に分かりやすく説明する。 各自予想⇒班内で話し合い⇒全体に発表させ、実験の結果に興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手回し発電機で豆電球を1個点灯させるときの、2個の場合の手ごたえを比べる。 2個の手回し発電機をつなぎ、片方を20回転させたとき、もう片方が何回転するか調べる。 手回し発電機を使ってスチールウールに電流を流したときの変化を調べる。 水を入れたポットを振り続けたときの温度変化を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【考察】の場面では、学びシートにエネルギーの内容が「難しい」「分からない」と書いている生徒を中心に支援する。
<p>授業改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報機器の活用によるプレゼンテーションの充実 ○エネルギーの移り変わりを体感できる実験 ○学びシートの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・理解の状況把握 ・つまずきの発見 		

前時に記入した学びシートから、エネルギーの習得が十分に図れていないことを把握する。

4つの実験内容に変更する。

本時のまとめ

- 身に付ける力を確認し、本日の「学習成果」と「次時への課題」を記入させる。
- 次回の内容(【考察】日常生活に見られるエネルギーの移り変わり)に触れ、予告をし、学習の見通しをもたせる。

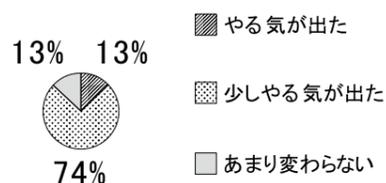
学習の成果(学習意欲)

- 実験にもしっかりと参加できたし、協力もできた！結果がきちんと確かめられてよかった。
- 実験結果が予想と違っていたところがあつたので、考察をよく考えたい。
- いろいろな実験ができてよかった。なぜそのような実験結果になったのか、次までに考えてくる。

ガイダンスマニュアルの活用

- 外国語の既習内容(語い、文法など)を、どのように生かすかを知ることで、生徒の習得の効果を高める。また自己の課題の解決へのよいきっかけとする。
- 外国語における言語活動について、興味・関心をもたせるとともに、単元全体の見通しをもたせる。

ガイダンスマニュアルの成果



学習意欲の向上(生徒の声)

- ガイダンスマニュアルを見て、復習が進んできた。
- 前の時間にどんな英文をやったかがよく分かり、また分からないところがあれば思い出せた。
- 英語の表現の単元の流れが分かり、一つ一つしっかりできた。

ガイダンスマニュアル

(1)時刻や時間に関する表現について、使う場面や内容を理解するとともに、聞いて大切な部分を理解できるようにする。(2)

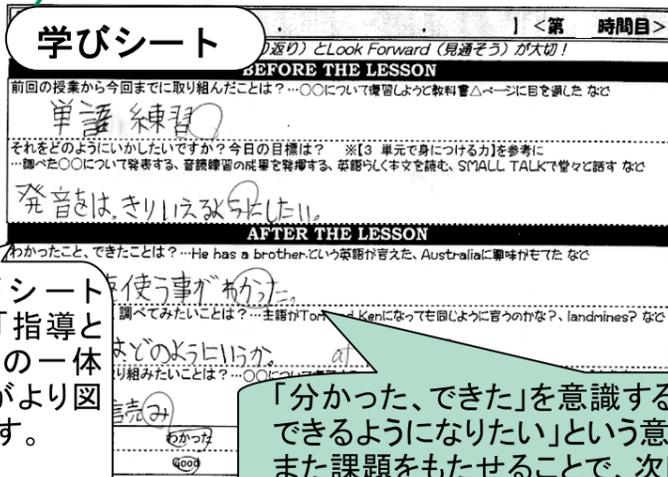
2 単元の流れ	学習のタイトル	学習のめあて	例文・内容	学習のポイント
第1時間目	「今、何時ですか」	<What time is it? >の表現を覚える。また使えるようにする。	What time is it? --- It's seven thirty.	数字を英語で表現
第2時間目	「あなたはふだん、何時に起きるの?」	<What time do you usually get up? >の表現を覚える。また使えるようにする。	What time do you usually get up? --- I get up at six twenty.	疑問文の表現の仕方
第3時間目	「聞いて理解できるかな」	時刻や時間に関する対話文を聞いて、大切な部分を教科書を音読し表現を確実に覚える。		教科書本文の音読

(1)関心・意欲・態度: ①時刻や時間の表現をつかしながら積極的に会話しようとする。②間違いを恐れずにコミュニケーションをしようとする。

ポイントを示すことで、何を復習すればよいか分かります。

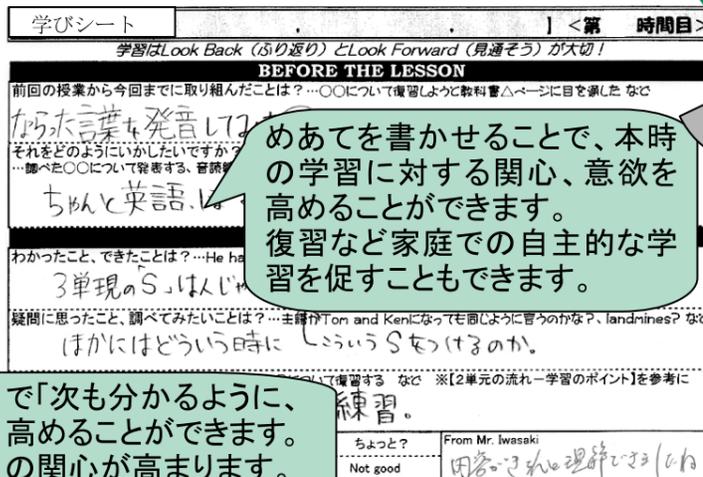
例文を見ることで、前時の内容を振り返ることができました。

学びシート



学びシートから「指導と評価の一体化」がより図れます。

「分かった、できた」を意識することで「次も分かるように、できるようになりたい」という意欲を高めることができます。また課題をもたせることで、次時への関心が高まります。

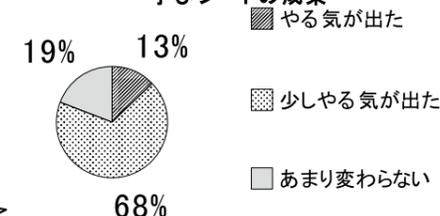


めあてを書かせることで、本時の学習に対する関心、意欲を高めることができます。復習など家庭での自主的な学習を促すこともできます。

学びシートの活用

- 生徒の理解やつまずきを知り、より有効な展開や教材の工夫・改善を図る。また、教師のコメントにより、細かな支援をする。
- BEFORE THE LESSON と AFTER THE LESSON の記載から、生徒に課題をもたせ、次時の学習内容への関心、意欲が向上する。また、授業後にまとめさせることで、学習内容の定着をさらに高めさせる。

学びシートの成果



学習意欲の向上(生徒の声)

- 課題を書くことで、「やらなくちゃ」と思った。
- 単語練習など自分の目標を生かしてできた。
- これまで勉強した例文を見直して意欲が出た。また振り返ることで何をやったか分かった。
- めあてを達成しようと、頑張れるようになった。

本時の導入

- 本時までの取り組みと本時の目標を学びシートに記入させる。
- 流れの中で、本時のめあてを提示する。
- ウォームアップ(個別に small talk の会話)を行う。

見通しをもつ(本時のめあて)

- 今日のめあてから、勉強する内容の「時間の答え方」を完璧にしたい。
- 英文を書けるようにし、積極的に発言したい。
- 「今何時ですか」を、プリントを見ないで言えるようにしたい。
- 数字(単語)をどう言うか見直して、書けるようにしたい。

本時の展開

2時間/3時間

<p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 基数の確認(ゲーム) 1から順に Count up、ある数の時だけ別の語を言う 時計を使って、What time is it の応答確認をする。 	<p>新出事項の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> 会話を通して What time do you ...? の目標文を導入する。 	<p>活用(言語活動)、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> Activity What time do you... を使ったインタビュー活動を取り入れる。
--	---	--

授業改善の視点

- 既習事項の活用
 - 数字を英語で表現
- small step をねらいとしたワークシートの活用
- インタビュー活動の設定
 - コミュニケーションを図ろうとする意欲の向上
- 教師と生徒、生徒同士の対話練習
- 次時への予告と復習のポイントの徹底

実際にやってみよう! 積極的な活動が大切だね。

本時のまとめ

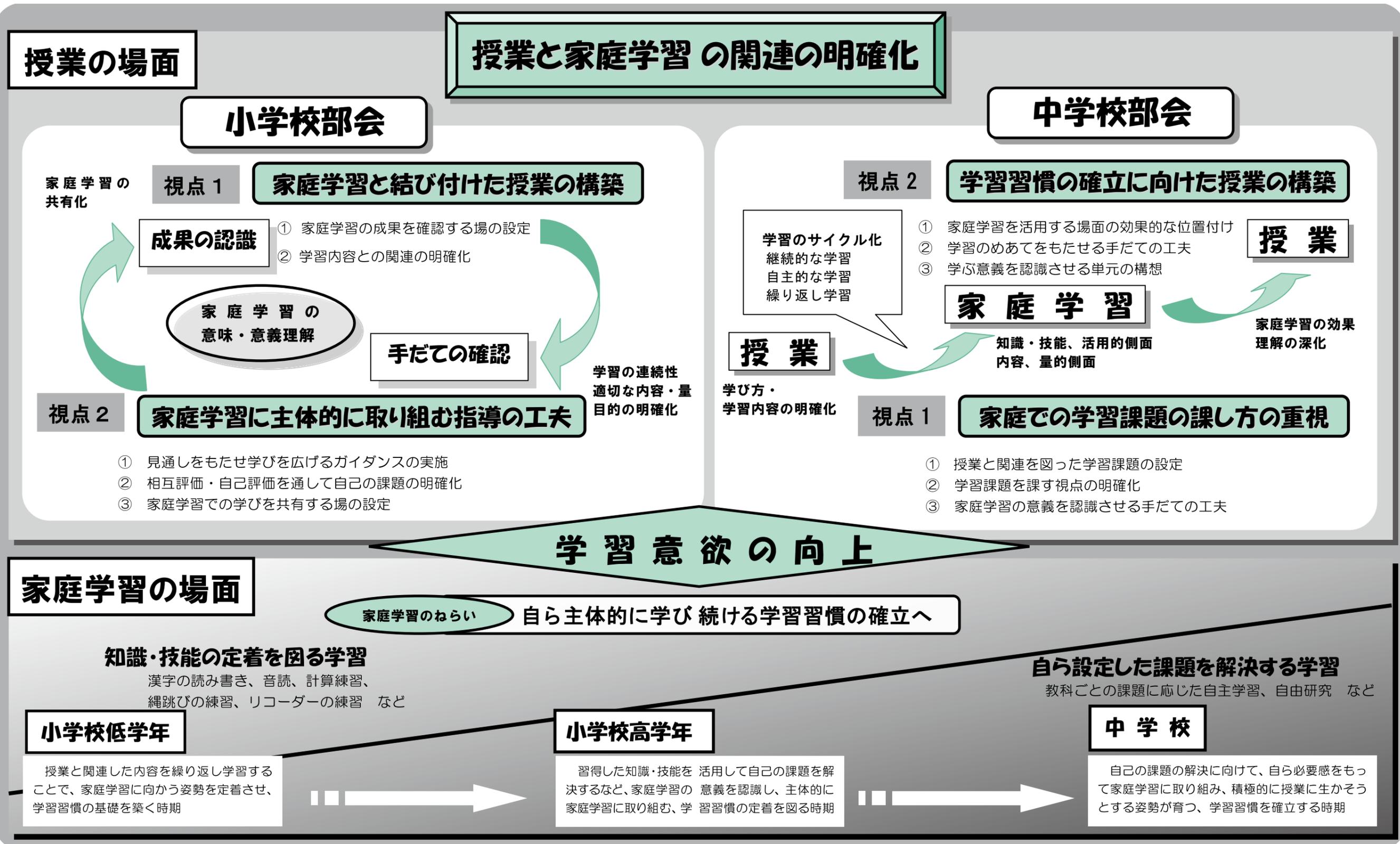
- 自ら作成した Dialog の発表、本時のめあての確認をさせる。
- 次時の予告をする。
- 本時の成果と次時への課題をシートに記入させ、見通しをもたせる。

学習の成果(学習意欲)

- 今日勉強した英文を家でも何回か言ってみよう。
- 難しい文がスムーズに言えることができてうれしい。
- 「〇時に~する」を言う時 at を使うことが分かり、めあてが達成した。
- 午前、午後はどうやって区別するか疑問に思った。
- 「明日〇時に~するか」はどう言うのか次までに調べてみたい。
- 時間を、友達と英語で言い合いたい。

学習習慣 小・中学校部会 研究の視点

本部会では、児童・生徒に、家庭との連携を図りながら、自ら主体的に学び続ける学習習慣を形成・定着させることが、学習意欲を高めることにつながると考えた。また、発達段階に応じた家庭学習のねらいを意識し、家庭学習と授業の関連を図るとともに、家庭学習を生かした授業づくりに向けて、研究を進めてきた。



小学校 国語(第3学年) 音読練習の成果を交流の場で確認する

単元名 「場面の様子を想像しながら読もう」

教材名 「ちいちゃんの かげおくり」

家庭学習で取り組んだ音読練習の成果を確認する場を授業の中で毎時間設定し、家庭学習と授業を結び付ける。
相互評価・自己評価によって自分の伸びを意識させ、児童の学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

家庭学習

授業と家庭学習の関連

授業

取組の成果

知識・技能の定着を図るための繰り返し学習

目的

- 学校の授業と連動した課題を継続して行うことで、知識・技能の定着を図る。
- めあてをもって家庭学習に取り組もうとする姿勢をはぐくむ。
- 家庭学習に対する保護者からの励ましにより、さらに新たなめあてをもたせる。

学習活動

- 授業で決めた音読のめあてに沿って音読練習をする。
- 家の人から音読を聞いた感想を「音読感想カード」に記入してもらう。

音読感想カード



<児童の声>

友達に言ってもらったこと(感情を込める)に挑戦すると、音読がどんどん上手になった。

友達からの肯定的な言葉によって、自分の伸びを意識する。

保護者の協力、励ましによって、学習意欲を向上させる。

保護者の声から

友達の感想を参考にしながら工夫して読んでいました。

家庭で、物語の時代背景を話し合ったり、平和や戦争について話し合ったりする機会となりました。

自分から音読を聞いてほしいと言いうようになりました。

授業のねらい

「場面」についてよりよく理解し、情景や登場人物の様子・心情について叙述に基づいて想像する。

1 単位時間の授業の流れ

- 第1段落後半を学習することを 知り、学習の見通しをもつ。
- 音読を行う。

家庭学習の成果を交流し合う活動



「感情を込めて読んでみるね」

音読練習の成果を確認し合う。

- 音読のめあてを伝え合い、聞く際のポイントを明確にする。
- 音読のめあてに沿って取り組んできた練習の成果を交流し合い、確認する。

ちいちゃんの家族の気持ちについて学習します。想像しながら読みましょう。

家庭学習に主体的に取り組む指導の工夫



「昨日より間違えずに読めたね」

相互評価・自己評価によって自己の課題を明確にする。

- 互いの音読を聞き合い、よかったところを伝え合う。
- 友達からのアドバイスを基に、音読のめあてを決める。

- 第1段落後半の内容を理解する。

- 登場人物の気持ちや行動の理由をワークシートに記入する。
- 友達と発表し合い、本文中のどの部分を参考にしたのかについて考える。

- 次時の学習の見通しをもつ。

次時は第2段落について読み取ることを伝える。

◆ 授業と関連した家庭学習の継続による基礎的・基本的な知識・技能の定着

授業と家庭学習を関連付け、継続して取り組んできたことで、物語の内容や場面の様子がよく分かるように音読することができるようになった。

◆ 相互評価・自己評価による自己の課題の明確化・意識化

相互評価・自己評価の活動を取り入れたことで、自己の課題が明確になった。

できたことを認めてくれる友達の言葉によって、「もっと頑張ってみようかな」など音読練習に対する意欲が見られるようになった。

◆ 家庭との連携による意欲の向上

家庭との連携を図ることによって、繰り返し学習に継続して取り組むなど、学習意欲が向上した。

学習意欲の向上へ

- 自分で決めた目標に取り組むことを繰り返したことで、自ら課題を見付け、それに向けて学習しようとするなど、主体的に学習に取り組む態度へとつながってきた。
- 友達の感想を参考にして工夫して音読するなど、友達からのアドバイスを受け、自分の課題を意識することができ、学習意欲の向上につながった。
- 保護者が家庭学習にかかわることで、子供の頑張りを認めたり、励ましたりする機会が増え、「自分から音読を聞いてほしいとお願いする」など、音読に対する意欲が高まった。

小学校 算数(第5学年)

友達がつくった問題に挑戦し、学習意欲を高める

単元名 「分数の表し方」

授業で学習した内容の問題づくりを家庭学習で取り組む。その問題を友達と交換して解き合う場を毎時間設定し、家庭学習と授業を結び付ける。友達のつくった問題に挑戦することによって、学習意欲を喚起させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

家庭学習

授業と家庭学習の関連

授業

取組の成果

知識・技能の定着を図るための繰り返し学習

目的

- ・ 学校の授業と連動した課題を継続して行うことで、知識・技能の定着を図る。
- ・ 問題とその解答づくりを通して、既習事項の確認と理解の定着を図る。
- ・ 自分で調べたり考えたりする活動を通して、学び方を身に付ける。

学習活動

- ・ 授業で習得した知識・技能を生かして、問題と解答を作成する。

〈児童の声〉

問題をつくるのは難しく、自分で教科書やノートを調べてつくった。

分数問題・挑戦状

【第1問】 $7\frac{2}{8} - 2\frac{5}{8}$	【第2問】 $3\frac{3}{5} - \frac{4}{5}$	【第3問】 $3 - \frac{3}{5}$	【第4問】 $1 - \frac{2}{6}$
【第5問】 Aくんは牛乳を $\frac{2}{5}$ リットル飲みました。Bくんは牛乳を $\frac{4}{5}$ リットル飲みました。どちらが何リットル多く飲みましたか。			

児童の変容

「難しい問題をつくらう」「おもしろいと言われる問題にしよう」等、意欲的に課題に取り組むことができた。

友達に解かせる問題をつくることで、正しく表現したり計算したりしようとして、丁寧に課題に取り組むようになった。

ノートや教科書をすすんで見直すなど、既習事項を確認しながら課題に取り組むようになった。

授業のねらい

小数できちんと表すことができないわり算の商の表し方を考える。

1 単位時間の授業の流れ

1 家庭でつくってきた分数の計算問題を交換して解き合い、前時までの復習を行う。

友達のつくった問題に挑戦する活動



「この答え、合っているかな」

友達のつくった問題に挑戦する。

- 授業の導入段階で、家庭学習で作成した問題を友達と交換し、解き合う。
- ヒントや説明など、友達とかわり合いながら活動する。

今日は全部の問題を正解してみせるぞ。

2 本時の学習課題に取り組む。

小数できちんと表すことができないわり算の商の表し方を調べる。

2リットルの牛乳を3人で等しく分けるとき、1人分は何リットルになるでしょうか。

「挑戦状」で復習した同分母分数の加法・減法を使って、 $2 \div 3$ の商を確かめるようにする。

3 本時の学習を振り返る。

家庭学習に主体的に取り組む指導の工夫



「数を大きくして、少し難しい問題をつくってみようかな」

ガイダンスにより家庭学習の課題を明確にする。

- 終末段階で、本時の学習内容を整理し、習得した知識・技能を生かして家庭学習へつなぐ。
- 次時の導入段階における友達と解き合う活動を意識して取り組む。

◆ 授業と関連した家庭学習の継続による基礎的・基本的な知識・技能の定着

授業と家庭学習を関連付け、継続して取り組んできたことで、「毎日、課題に取り組み、正しく計算できるようになった」など、児童の計算力が身に付いてきた。

◆ 友達とかわり合う活動による学習意欲の向上

友達のつくった問題を友達の前で正しく解くことで自分の伸びを確認するとともに、できた喜びを味わわせることができた。

自分で自由に問題をつくらたり友達の問題を解いたりする中で、自分でつくった問題や解答が友達から認められる経験を重ねることで、「友達が真剣に取り組んでくれるのでうれしい」「難しい問題に挑戦してみたい」など、学ぶことの楽しさを感じることができた。

◆ ガイダンスによる家庭学習の課題の明確化

授業の終末段階で問題づくりのポイントやヒントを説明することで、家庭学習の課題が明確になった。

学習意欲の向上へ

- 友達と問題を交換して解き合う時間への期待感から、継続して家庭学習を行えるようになってきた。
- 自分や友達のつくった解答を確かめようとする意識が高まり、「友達が解く問題だから正しく丁寧にしよう」など、既習事項の確認をすすんで行う児童が増えた。
- 問題をつくらたり、正しく解答できたりすることの楽しさから、課題に集中して取り組み、すすんで発言するなどの学習意欲が向上した。

単元名 「構成を工夫して」

教材名 「わたしの意見」を書こう

授業で習得した意見文の書き方についての知識・技能を活用して家庭学習に取り組みめるように授業と家庭学習を結び付ける。
家庭学習での学びを共有する場を設定し児童の学習活動を広げ、学習意欲を高める。

授業

授業と家庭学習の関連

家庭学習

取組の成果

授業のねらい

意見文の題材の見付け方、事実や経験に基づく意見文の書き方などの知識・技能を習得する。

1 単位時間の授業の流れ

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 意見文の書き方などの知識・技能を習得する。

学習内容との関連を明確にする活動



「僕もそんな経験があります」



「私は、〇〇という経験をしました」

意見文の書き方を習得し、活用の仕方を学ぶ。

- 新聞の投書から自分の経験を想起し、社会に問題意識を抱き自分の考えをもつ。
- ・学級全体で視点をしばって意見を交換する。
- ・様々な立場になって考える。

- 意見文の題材の見付け方、事実や経験に基づく意見文の書き方などの知識・技能を習得する。
- ・意見文の題材にできそうな自分の経験について考える。
- ・自分の意見の根拠となる情報や資料を集めると説得力ある文章を書くことができることを知る。

3 本時のまとめをする。

学び方を伝える

- 日ごろから、社会の出来事やニュースに関心を持ち、自分の意見や考えを書く習慣を身に付けると、思考力が高まり文章の表現力も向上することを伝える。

習得した知識・技能を活用して 自己の課題を解決する学習

目的

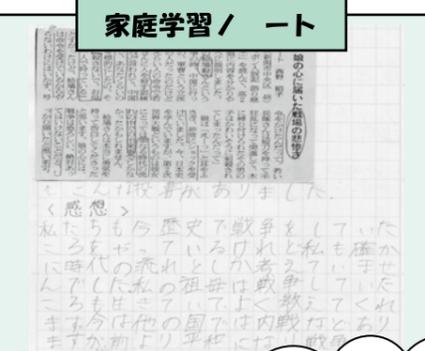
- ・ 学習内容を活用する課題を課すことで、学習内容の習得を図り、家庭学習への意欲を高める。
- ・ 自分の考えをもち、それを表す活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

学習活動

- ・ 授業で習得した意見文の書き方についての知識・技能を活用して、興味や関心をもったニュースに対する自分の意見や考えを家庭学習ノートに書く。

家庭学習に主体的に取り組む指導の工夫

家庭学習ノート



家庭学習での学びを共有する。

- 家庭学習で取り組んできたノートを紹介する。
- 家庭学習で取り組んできたことを学級便りに掲載し、学びを広げる。

<保護者の声>

新聞記事に対する意見を書くようになってから、家族と今の社会での出来事に対して語り合えるようになりました。

<児童の声>

新聞が身近な存在になり、自分の興味や関心のあるニュースを見付けられるようになった。

<児童の声>

続けることで、社会の出来事に対して、自分の意見をしっかりともつことができるようになった。

◆ 学習内容を活用した家庭学習による 課題意識の高まり

授業で学んだ内容について、家庭学習での具体的な活用の仕方と併せて学ぶことにより、社会に目を向け、興味や関心のあるニュースに対する意見を書くなど、課題意識をもって意欲的に家庭学習に取り組める児童が増えた。

◆ 自分の意見や考えを書く体験の積み重ねによる 表現力の向上

授業で提示された新聞の投書だけでなく、自分が興味や関心をもったニュースを基に意見を書くことを繰り返し行うことで、社会に関心をもち、様々な事柄に問題意識を抱き、自分の考えを文章で的確に表現できるようになってきた。

◆ 家庭学習での学びを共有する場の設定による 学習意欲の向上

家庭学習で取り組んだことを次の授業の導入で使ったり、学級便り等でも定期的に紹介したりすることで、「自分の取組がみんなのモデルになってうれしい。次も頑張りたい」など、児童の学習意欲が向上した。

学習意欲の向上へ

- 授業で習得した意見文を書くための知識・技能を家庭学習で活用してきたことにより、他教科においても自分の意見や考えを積極的に表現するなど、すすんで学習に取り組むようになってきた。
- 友達が取り組んだ家庭学習を参考にするにより、「自分もニュースに対する意見や感想を書いてみようと思う」など、積極的に学習する児童が増えた。

小学校 特別活動(第6学年)

家庭学習の不安や疑問を解決し、意欲的な家庭学習につなげる

題材名 「家庭学習の計画を立てよう」

3時間扱い(学期ごとに1時間)

1学期に立てた家庭学習の計画を見直す。不安や疑問の解決に向けて話し合ったり、自分の課題を明確にしたりすることによって、家庭学習の方法や進め方を見直し、児童が意欲的に家庭学習に取り組むようにする。

「家庭学習の計画を立てよう」

1学期「1年間の家庭学習の進め方を知る」

- 家庭学習の方法を知る。
 - ・ (例) Aメニュー(基礎学習・予習・復習系)、Bメニュー(表現・実技・創作系)、Cメニュー(発展学習・思考力系)
 - ・ 宿題と自主学習を合わせて、家庭学習に取り組む目安となる時間について考える。
- 計画表の作成の仕方や計画の実施方法について知る。

2学期「自分の課題を知り、家庭学習の計画を見直す」

- 児童の実態や不安な点、疑問点などを出し、解決に向けてみんなで話し合う。
- 友達の家庭学習の実践(ノート、作品)を互いに見合っ
- て参考にし、よさを認め合う。
- 「己を知ろう」ワークシートで、自分の課題を知り、家庭学習へとつなげる。
- 家庭学習の計画表を作成する。(1週間分)

3学期「1年間の成果を発表し合い、中学校へつなげていく意欲をもつ」

- 1年間の家庭学習の成果を振り返り、発表する。
- 友達の頑張った成果を認め合う。
- 小学校と中学校の学習方法の違いについて、中学校の先生から話を聞く。
- 中学校の先輩方から、中学校の学習方法についてのアドバイスを受ける。

授業のねらい

自分の課題(発展的に取り組みたいことと復習して定着させたいこと)を知り、家庭学習の計画を立てることができる。

1 単位時間の授業の流れ

家庭学習に主体的に取り組む指導の工夫

- 1 「家庭学習アンケート」の結果を聞き、感想を話し合う。
- 2 家庭学習に対する不安や疑問の解決に向けて話し合う。



「時間がない時はどうしていますか」

家庭学習の方法や進め方を見直す。
○家庭学習の実態や不安な点、疑問点などを出し、解決に向けてみんなで話し合う。

家庭学習はどのくらいしたらいいの?
「自主学習」って、みんなはどんなことをしているの?

3 友達の実践を参考にする。



「こんなふうにすればいいんだ」

家庭学習の実践を共有し、紹介し合う。
○家庭学習の実践(ノート、作品など)を互いに見合い、どのようなことをどのように取り組んでいるのか紹介し合う。

私も同じ課題だったけれども、こうすればいいんだ。
とても見やすくきれいにまとめられている。自分も参考にしてみよう。

4 家庭学習の計画を立てる。

「己を知ろう」ワークシート

苦手なこと・復習が必要なもの	自主学習の「基礎」につながる	具体的に何をやる? 誰を参考にする?
興味がある・さらに伸ばしたい	自主学習の「発展」につながる	具体的に何をやる? 誰を参考にする?

自己評価や相互評価によって、自己を振り返り、課題に気付く。

- 「己を知ろう」ワークシートに記入し、自分の得意・不得意を確認し、家庭学習の内容を明確にする。
- 友達の実践から学んだことなどを取り入れて、学習内容を考える。

取組の成果

◆ 疑問や悩みの共有化

児童の疑問や不安をみんなで解決したことにより、「みんながどのような勉強をしているのかが分かった。自分はまだまだだと思ったので、これを機に勉強内容を変える」など、自分の家庭学習の計画を見直すことができた。

◆ 交流の場による学習意欲の向上

家庭学習の実践を互いに見合うことによって、具体的に学習の方法が分かるようになった。また、「友達からすごいと言われてたり、みんなに紹介されたりしてうれしい。もっといろいろなことに挑戦してみたい」など、友達から認められたことによって学習意欲が高まった。

◆ 自己評価・相互評価による学習内容の明確化

自分の得意なことは知識・技能の活用を図る学習へ、苦手なことは基礎的・基本的な知識・技能を定着させる学習へと、自分の学習内容が明確になった。

〈児童の声〉
やり方が分かって、家庭学習が楽しくなった。

〈保護者の声〉
自分からすすんで勉強するようになりました。

学習意欲の向上へ

- 学期ごとに家庭学習の方法や進め方を見直すことにより、児童は、家庭学習に対する不安や疑問を解決するとともに、家庭学習の計画を改善することができた。
- 児童が自ら学習課題を見付けるなど、すすんで家庭学習に取り組むようになった。

家庭での学習課題の課し方の重視

- ◆ 基礎・基本の確実な定着を目指す課題を課す
基礎的・基本的な知識・技能である漢字の読み書きや言語事項に重点を置き、復習できる問題を学習課題として課す。
- ◆ 自主的・自発的に課題を選ばせる
授業に関連して、生徒が興味・関心をもった内容や、自分が課題とする内容など、生徒が自分で学習課題を決めて取り組むようにする。

学習習慣の確立に 向けた授業の構築

- ◆ 家庭学習を活用する場面を効果的に位置付ける
学習内容についてどの程度定着しているか、生徒自身が確認できるような場面を必ず設定する。また、家庭学習の成果を必ず確認し、自主的・自発的に継続して取り組むことができるよう、教師が生徒一人一人の実態に合わせて、意欲を喚起するような声をかけたり、家庭学習の内容及び方法などについての指導を行ったりする。

取組の成果

- ◆ 復習の重視により、知識・技能の習得・活用へ
生徒へのアンケート調査から、60.7%の生徒が「漢字の読み書きができるようになった」と実感していることが分かった。また、家庭で復習することで、「分かった」という実感が自信につながり、授業での積極的な発言が増えてきた。さらに、継続して取り組むことができるよう指導を工夫していくことが課題である。
また、生徒が書いた作文からは、言語事項を確実に身に付けることにより、段落の役割を意識して文章を読んだり、構成を考えて作文を書いたりできるようになってきたことがうかがえる。

- ◆ 「自主学习」の取組により、家庭学習の継続化へ
自主学習の取組状況について、教師が定期的に確認し、取り組んできた生徒一人一人に励ましの声をかけたり、学習内容・方法について助言したりすることで、継続的に取り組めるようになってきた。
生徒へのアンケート調査から、60.2%の生徒が自主学習に取り組み、1日の家庭学習時間が平均約40分間増えたと回答した。また、自主学習を通して、「家庭ですすんで学習に取り組めるようになった」という自己の変容についての感想をもった生徒が増えた。

生徒のアンケートから

興味・関心のあることをすすんで調べようになりました。

家庭学習に取り組んでどんなことを感じていますか。

必ず復習することで授業がよく分かるようになってきました。

先生が必ず見てくれるので、がんばってみようというやる気が出てきました。

忘れていた漢字を思い出せるようになってきました。

学習意欲の向上へ

- 授業で身に付けた力を作文や発表などの表現活動に積極的に活用しようとする生徒や授業で興味・関心をもったことを発展させ、さらに深く探究しようとする生徒が増えてきた。
- 家庭学習の重要性について教師間で共通理解を図り、学年で共通に取り組むことにより、生徒の家庭学習に対する意識の向上につながった。

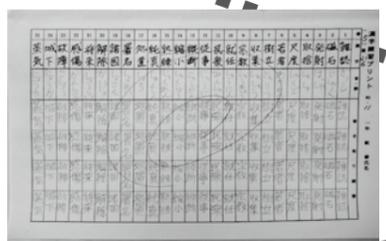
家庭学習

授業と家庭学習の関連

授業

漢字学習ファイル

- 既習事項である、小学校5・6年配当漢字の読み書きについて練習ができる構成にする。
- 単元の新出漢字についても復習できる課題を課す。



復習ワークシート

- 授業で学習したことを家庭で復習できる内容にする。
- 「基礎問題」と「発展問題」を用意し、「分かった」「もっと取り組んでみたい」という実感をもてるようにする。

復習ワークシート

「文章・段落・文」

練習1 次の文章に句点を付けなさい。

僕とタロウは、公園によく散歩にいきます。タロウは知らない人にもめつたにほえません。

練習2 次の文章はいくつの形式段落と、いくつの文からできているか。

わたしが中学校に入ってから、一番新鮮に感じたことが、話を聞かす。部生は、正部に入校したとき、先輩の話を聞いて、本松さんが入校したとき、先輩の話を聞いて、わたくしは、先輩の話を聞いて、わたくしは、先輩の話を聞いて、

自主学習ノート

- 生徒が授業の内容に関連した課題（音読、意味調べ、漢字練習、授業の復習等）を自主的に選択して取り組むようにする。
- 毎回ノート1ページ以上取り組むようにする。「音読」の場合は、保護者の感想を書いてもらうようにする。



授業のねらい

「文節」の意味とその働きについて理解する。

1 単位時間の授業の流れ

- 1 漢字テストから、自己評価を行い、家庭学習への見直しをもつ
- 2 前時の学習内容を確認する
- 3 本時の目標と学習内容を確認する
- 4 文節の意味と働きについて考える
- 5 文節に区切る練習をする

「漢字学習ファイル」は定期的に提出させ、家庭学習の取組状況について必ず教師が確認します。
生徒はテストを通して家庭学習の成果を確認し、家庭で見直しを立てて復習できるようにします。

「復習ワークシート」の答えを確認します。家庭で取り組んできているので、自信をもって発言できます。さらに、前時までの学習内容の理解について自己評価を行います。

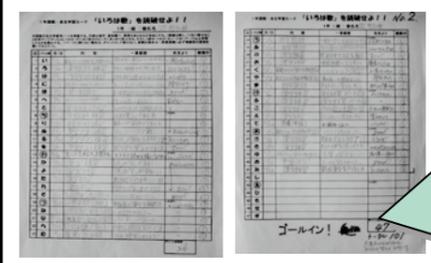
問 次の文を「ネ」を入れて文節に区切りなさい。

(例) 山の上に一一家が一ある。

- ① かばんに付けたすが鳴る。
- ② 赤い屋根の家がある。
- ③ ここが、今月の初めに開店した新しい店だ。
- ④ ぼくは、昨日かぜを引いて休んだ。

前時までの、文章の構成についての理解を確実にした上で、文節について学習に取り組めるようにします。
様々な問題を解かせることで、「文節」の働きに気付かせ、日常生活における会話や作文に結び付けるようにします。

- 6 本時を振り返り、自己評価を行う
- 7 家庭学習において取り組む課題を明確にする



「自主学習カード」に家庭で取り組んだ内容を記入し、「自主学習ノート」等と一緒に提出させ、その日のうちに返します。教師は生徒一人一人の成果を必ず確認し、意欲を継続できるように、毎回励ましの言葉を赤ペンで添えるようにします。また、学習課題、方法についても助言します。

家庭での学習課題の課し方の重視

- ◆ 次時のねらいに向け、考察を深めることにつながる課題を課す
授業において、学習した内容を活用してより深く考察することができるようにするため、次時での主な発問に関連した学習課題を課す。特に、歴史分野の場合は、既習事項を整理できる課題とする。

学習習慣の確立 に向けた授業の構築

- ◆ 学習のめあてを明確にもたせる工夫をする
生徒一人一人に学習のめあてをもたせることで、家庭学習に取り組むよさを実感できるようにする。
- ◆ 授業のねらいに迫る発問を工夫する
家庭学習に取り組んできたからこそ、「自分の力で解けた」、「考察が深まった」と実感できるような発問を工夫する。

取組の成果

- ◆ 「予習ワークシート」で、家庭学習の定着へ
生徒にアンケート調査を行ったところ、「以前に比べて家庭学習に取り組むようになった」と回答した生徒が79.4%であった。

以前の予習・復習はただその日やその内容が覚えられていて、次の授業の内容との関連が分からなくて楽しくない。その時代の人物や出来事などをより深く知りたいと思えるようになった。その時代のすべての事を覚えたいとも思うようになってきた。

また、「家庭学習に取り組むことで授業への取組や意欲が変わった」と回答した生徒は73.5%であった。

実感できる。旧に学校と家で2日授業と予習復習をしているので、次の出来事や人物なども分かるし、何日経ても前に学習した事が忘れることが無くなりました。

家庭学習の取組内容を授業で生かせることで、達成感・成就感が得られ、次も家庭学習に取り組んでみようという意欲へつながっていった。さらに、継続して取り組むことができるよう指導を工夫するとともに、徹底していくことが課題である。

- ◆ 「授業の目標カード」で、主体的な学習態度の形成へ

授業の目標を明確にすることで、今回の授業では何をどのように取り組めばよいのかがつかめ、次の授業への意欲につながった。

今日の授業の目標はどの目標に沿ってがんばって覚えようと思えるようになった。前の目標をたてる事で今日はできたが次からはどう進めようかと反省ができる。

学習意欲の向上へ

家庭学習において見通しを立てて予習することにより、予習した内容を活用して、授業で考察を深めることができるようになった。さらに、生徒が自己の課題に応じて、自分が家庭学習で取り組む内容を考え、主体的に家庭学習に取り組む姿が見られるようになってきた。

家庭学習

授業と家庭学習の関連

授業

復習ワークシート

- 習得した知識・技能を活用して取り組める課題を課す。歴史分野では小学校での学習内容との関連を考えて作成する。
- 次時の授業の導入として活用できる内容や構成を考える。
- 生徒が自己の課題に気付く、次の学習の手がかりとなる内容とする。

復習ワークシートのイメージ。社会科プリント、教科書P44-45、資料集P44-45、P46-49、P180。課題復習の欄があり、① 似たような問題を解いたことか、② 疑問に思った点の理由か、③ 疑問の解消はどのようなことか、④ 疑問はどのように解決したか、⑤ 疑問はどのように解決できなかったか、と記入する欄がある。

予習ワークシート

- 生徒が事象を様々な視点で捉え考察をより深められる学習内容を課題とする。
- 既習知識・技能を活用して解決するような課題を意図的に課す。
- 学習の見通しを立てられる構成を工夫する。
- 次回の授業で確実に活用できる課題にする。

予習ワークシートのイメージ。課題復習の欄があり、① 似たような問題を解いたことか、② 疑問に思った点の理由か、③ 疑問の解消はどのようなことか、④ 疑問はどのように解決したか、⑤ 疑問はどのように解決できなかったか、と記入する欄がある。

「今日の授業の目標」カード

平成22年度 社会科 今日授業の目標 (NO.1)				
NO.	月日曜日	授業の目標	自分の目標	達成度
1	9/8(水)	P22 半和主議に於いて憲法ではどのように表現されているか	憲法は半和主議に於いてどのように表現されているか	A
2	9/10(金)	P24 国際平和に向けた日本の役割を知る	国際平和に向けた日本の役割を知る	A

- 授業の目標を明確にするとともに、自分の目標についても明確にすることにより、家庭学習への意識が高まるようにする。
- 次時への目標を明確に書くことにより、学習の見通しを立て、自主的に家庭学習に取り組むことができるようにする。

授業のねらい

全国統一事業への流れと統一に向けた政策のねらいを理解し、考察を深める。

1 単位時間の授業の流れ

- 1 前時の学習を振り返る
復習ワークシート「前回の授業の復習」を確認する。
 - 2 織田信長による統一事業の流れを理解する
予習ワークシートの「年表」を確認する。
 - 3 織田信長の全国統一への流れについて考察する
予習ワークシートの「語句」を確認する。
- 【主な発問】
「長篠合戦図屏風」を見て、織田軍と武田軍はどちらか勝ったでしょうか。その理由も考えましょう。
- 4 次時への見通しをもつ
「今日の授業の目標カード」を使い、本時について振り返り、次時に向けての家庭での学習課題を明確にする。

家庭学習として復習したことの確認と評価を行うため、多くの生徒に発表させます。

「予習してくると授業が分かる」「授業が楽しい」という実感をもたせます。

小学校での既習事項を活用して取り組める課題を家庭で取り組んでくことで、授業のねらいに迫る主な発問について、自分の力で解決し、考察を深めることができます。

授業の目標に対する達成度や、次時の目標達成のために家庭でどのような学習に取り組むかを生徒自身が考えます。



家庭での学習課題の課し方の重視

- ◆ 授業における学習問題を自分で解決できるような課題を課す
次時の学習問題を解くときの手がかりが分かるような学習課題を予習として課す。
- ◆ 学習内容の確実な定着を図る課題を課す
学習した内容を振り返って復習できる問題を学習課題として課す。問題数、難易度など個に応じて工夫する。

学習習慣の確立に向けた授業の構築

- ◆ 自分の力で解決する場面を設定する
予習の問題について解き方を確認した後で、本時の学習問題を自分の力で考える場面を設定する。その際、時間を十分に確保する。
- ◆ 家庭学習の成果を確認する 場面を必ず位置付ける
生徒一人一人の成果を必ず 確認し、よい解き方や発展性のある記述などについて認め、励ます言葉 をかけるようにする。

取組の成果

◆ 「予習ワークシート」で、家庭学習の定着へ

「家庭学習成果カード」から、予習することで授業での学習問題を自分で解決できたという達成感・成就感を味わうことができるようになっていくことが分かった。また、継続した取組により、効果が実感でき、多くの生徒が家庭学習に取り組むようになった。

◆ 「授業→家庭→授業…」というサイクル化により、主体的な学習態度の形成へ

学習課題を渡すと、終礼した後に教室で取り組んだり、昼休みに友達と相談し合ったりする姿が見られた。また、「もっと問題をください」、「問題を解くことが面白い」などという生徒の声が増えてきた。

◆ 「家庭学習成果カード」の活用により、家庭学習の定着へ

「家庭学習成果カード」の活用により、学習の取り組み方について個別に助言することができ、あまり家庭学習に取り組んでこなかった生徒が少しずつ取り組めるようになってきた。

学習意欲の向上へ

次時への予習を行うことにより、授業で「自分で解けた」という実感をもつことができた。本時ではダイヤグラムのグラフの読み取りを行ったが、自分で解けたという自信から、他のグラフにも興味をもち、家庭で自己の課題に応じて、主体的に学習に取り組む生徒の姿が見られるようになった。

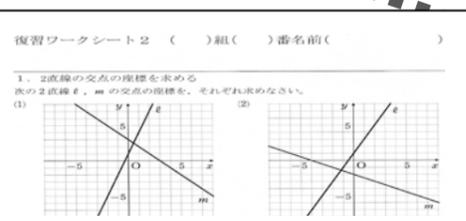
家庭学習

授業と家庭学習の関連

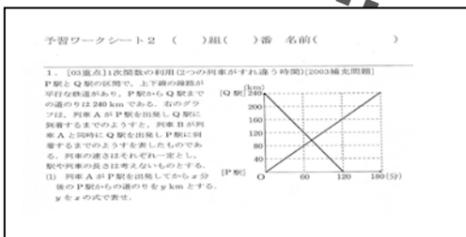
授業

復習ワークシート

- 授業で学習したことを確実に定着させるために、「復習ワークシート」を家庭での学習課題として課す。
- 次回の授業の導入で必ず確認する。



- 次回の授業に確実に活用できる内容の問題を「予習ワークシート」として課す。
- グラフの交点が列車のすれ違う時刻・場所であることに気付かせ、次時の学習問題を自分で解決できるようにする。



- 復習及び予習への取り組み方、確認テストの評価などについて教師が確認する。
- 家庭学習の重要性や家庭学習の進め方等について、生徒一人一人に応じた助言の言葉を書く。

月 日 曜日	復習ワークへの取り組み	予習ワークへの取り組み	確認テストの出来具合	授業-家庭学習-授業	成果(5段階)
9月1日(水)	授業をしっかり聞いていた。	復習ワークを頑張った。	△テストの結果、よかった。	○予習の問題が面白かった。	4

授業のねらい

1次関数を用いて具体的な事象をとらえ、説明する。

1 単位時間の授業の流れ

1 「復習ワークシート」で前時の学習を確認する

2 「予習ワークシート」の問題について解決の仕方を確認する

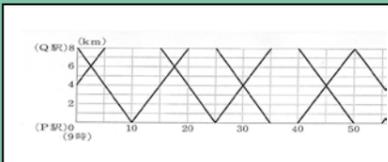


家庭学習に取り組んできたことを評価するため、多くの生徒と対話します。予習の問題の解決の仕方を全員で確かめ、次の自力解決へつなげます。

3 学習問題に取り組む

【学習問題】

下の図は、8kmはなれたP駅とQ駅の間、9時から10時までの列車の運行を表したグラフです。右のグラフで、Q駅を9時25分に出発する列車が、P駅から来る列車に出会うのは9時何分でしょうか。



4 確認テストに取り組み、自分の課題を明確にする

5 本時を振り返り、「家庭学習成果カード」に記入する

本時を振り返り、家庭学習の大切さを実感させ、次時へ向けて、家庭学習に取り組む意欲をもてるようにします。

家庭での学習課題の課し方の重視

◆ 基礎・基本の確実な定着を目指す課題を課す

「聞く」「話す」「書く」「読む」の4技能を総合的に育成するために必要な言語材料について理解を深めたり練習したりできるような、「英文を書くこと」、「音読」などの課題を継続して課す。

◆ 授業のねらいとの関連を明確にし、家庭学習の意義を理解させる

単元及び授業の冒頭に、単元の目標と家庭での学習課題の関連について説明することで、家庭学習の意義について生徒が理解できるよう指導を工夫する。

学習習慣の確立 に向けた授業の構築

◆ 家庭学習を活用する場面を 効果的に位置付ける

家庭学習に取り組んだことで、授業で学習する内容をより理解できると生徒が実感できるような場面を毎時間必ず設定する。

◆ 学ぶ意義を認識させる単元 を構想する

単元に、「意見文を書く」言語活動を位置付けることを生徒に明確に示し、学ぶ意義を認識できるようにする。

取組の成果

◆ 継続的な家庭学習により、知識・技能の習得・活用へ

授業で学習した英文を家庭で繰り返し練習することで、基礎的・基本的な知識・技能として定着したという実感を得ることができるようになってきた。

フティンアノートをやっていると自然と頭に英文が入り、文の構成が覚えられていた。

また、単元の目標である「意見文を書く」ことにおいて、習得した知識・技能を総合的に活用し、より豊かな表現にしようとする姿が見られた。

if + because. when の使い方も位置が分かっていたし、モウズが頭の中に入っていたから、自分の言いたいことをはめて使えた。

I am for the school lunch because we need the school lunch. If we don't have it, we have to make our own lunch each day. But if we have the school lunch, we don't have to make our own lunch and take our own lunch to school.

Unit 5に限りず色々な文をひらいて書けた。

I am against the school lunch because it's too much and I need long time to finish my lunch. I like our school lunch, but there is too much for me.

◆ 言語活動の明確な位置付けにより、主体的な家庭学習へ

単元の目標の達成に向け、生徒が自分の課題を考え、自主的に家庭学習に取り組む姿が見られた。

ライティングノートで英単語の意味を調べたり、辞書で調べて書いた。

フクアツの表現も使用できた。

学習意欲の向上へ

家庭学習に継続して取り組むことによって、スピーチや問答など、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動において、確実に定着した知識・技能を活用していると実感することができ、自分の考えをより豊かに表現しようとする姿勢につながった。

家庭学習

授業と家庭学習の関連

授業

ライティングノート

- 授業で学習した教科書の教材文を一文ずつ、通し番号を付けながらノートに書くように指導する。
- 教員が定期的に生徒の取組状況を確認し、個に応じて成果を認めたり、助言したりする。



音読

- 教科書本文を何度も音読し、5回ごとに☆印を教科書に付けるなど回数を記録するよう指導する。
- 授業の音読練習の場面で自己評価を行うことで、自己の課題を明確にし、家庭での音読に自主的に取り組めるようにする。

ワークブック

- 授業で学習した新出表現を再確認しながら練習する。
- 習得した表現を単元に位置付けた言語活動において活用できるようにする。

授業のねらい

設定されたテーマについて、自分の意見を述べる英文を書く。

1 単位時間の授業の流れ

- 1 前時の学習を振り返る
- 2 新出表現を学習する

前時に学習した教材文を聞き取って書いたり、音読したりすることで家庭学習の成果を確認する時間を必ず位置付けます。

[大人表現①：条件を述べる表現 (接続詞 if)]

If you can go, please call me.
If + 条件の文, 「どうするか」の文
「どうするか」の文 if + 条件の文

ここでは、接続詞を用いて、文と文とのつながりなどに注意して文章を書くことを「大人表現」と設定しました。

- 3 新出表現を使い、条件に当てはまる英文を書く
- 4 教科書の教材文について学習する

- ① 教材文を聞いて、概要を聞き取る
- ② フラッシュカードで新出語彙を学習する
- ③ 教材文を読みながら概要を理解する
- ④ 様々な方法で音読練習する

音読を繰り返し行うことで、知識・技能の確実な定着を図ります。また、家庭での学習課題である音読につなげるようにします。

自分の考えを伝える英文を書くことで、新出表現の定着を図り、単元の目標達成に向けての練習となるようにします。

- 5 新出表現を使って、自分の考えを伝える英文を書く
- 6 今日家庭における学習課題を確認する

単元の目標 「意見文を書く」

テーマ 学校給食について

単元に、「意見文を書く」という言語活動を位置付けます。その言語活動の遂行に向け、毎時間の授業に、学習した内容を活用して自分の考えを書く活動を設定します。書く際には、理由や説明も含めた英文で書くようにします。

研究のまとめと今後の課題

本委員会では、実践授業を通して成果を分析・考察することにより、次の点が明らかとなった。

まとめ

授業改善部会

- 「見通し」「振り返り」を重視した授業改善による学習意欲の向上
「見通し」「振り返り」の学習活動を意図的・計画的に位置付けることは、児童・生徒が学習の目的について自覚したり、学習における進歩の状況を意識したりすることにつながり、すすんで学習しようとする態度が育った。
- 効果的な手だてによる授業改善の推進
小学校部会では、教科等のねらいを踏まえ、児童に振り返らせたい「学習感想」を教師が具体的にイメージすることで改善の視点が明らかになった。中学校部会では、「ガイダンスマニュアル」等により、教科の特性に応じて生徒自身が学習計画を立てることができるとともに、主体的に学習に取り組むことにつながった。

学習習慣部会

- 授業と家庭学習の関連の明確化による学習習慣の定着
家庭学習を視野に入れた学習習慣を確立するためには、授業との関連を明確にし、家庭での学習課題を意図的・計画的に課すとともに、家庭学習の成果を活用する場を授業に適切に位置付けていく必要があることが分かった。
- 継続的な家庭学習による学習意欲の向上
家庭学習に継続して取り組むことにより、家庭学習のねらいや学び方が分かるようになるとともに、知識・技能の確実な定着につながり、児童・生徒が自分ですすんで学習しようとする意欲をもてるようになった。

今後の課題

授業改善部会

- 教科等の特性に応じた「見通し」「振り返り」の設定
各教科等の特性や単元構成に応じて、児童・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れていく必要がある。
- 個に応じたきめ細やかな指導の充実
児童・生徒に学習意欲を持続させ、学習に取り組ませるためには、児童一人一人の実態を踏まえた学習感想の分析や生徒一人一人の実態に応じたガイダンスマニュアル及び学習シートの効果的な活用を目指していく必要がある。

学習習慣部会

- 家庭学習についての組織的な取組の推進
学校全体で家庭学習の重要性や意義について共通理解した上で、学年間・教科間等での密接な連携を図り、適切に家庭学習を推進していく必要がある。
- 家庭との連携を図った学習習慣の確立
小・中学校9年間の発達段階を十分に踏まえるとともに、家庭との連携を図り、学習習慣が定着していない児童・生徒に対する具体的な支援を検討していく必要がある。

委員名簿

委員長 海東 元治 (調布市教育委員会教育長)
副委員長 前島 正明 (西東京市教育委員会指導課長)

委員

【授業改善小学校部会】

部会長 大谷 憲司 (立川市立第三小学校副校長)
委員 平田 勇治 (調布市立北ノ台小学校主任教諭) 委員 大藏 久美 (国立市立国立第三小学校主任教諭)
委員 田邊 洋子 (東大和市立第八小学校教諭) 委員 岩月 太郎 (福生市立福生第三小学校教諭)

【授業改善中学校部会】

部会長 神谷 出 (西東京市立けやき小学校副校長)
委員 小沢 進 (立川市立立川第五中学校主幹教諭) 委員 岩崎 浩示 (小平市立上水中学校主幹教諭)
委員 高橋 優子 (東大和市立第三中学校主任教諭) 委員 富室 直美 (狛江市立狛江第三中学校教諭)

【学習習慣小学校部会】

部会長 仙北谷仁策 (八王子市立横山第二小学校副校長)
委員 富川 克子 (町田市立三輪小学校主幹教諭) 委員 野口 直也 (三鷹市立中原小学校主任教諭)
委員 泉 浩子 (東久留米市立第三小学校教諭) 委員 佐藤由美子 (羽村市立羽村西小学校教諭)

【学習習慣中学校部会】

部会長 山下 久也 (府中市立府中第三中学校副校長)
委員 小島 千恵 (府中市立府中第八中学校主幹教諭) 委員 榎戸千代子 (あきる野市立秋多中学校主幹教諭)
委員 横林 泰介 (清瀬市立清瀬第五中学校主幹教諭) 委員 相沢 秀和 (昭島市立瑞雲中学校主任教諭)

事務局 東京都多摩教育事務所

所長	坂 崇司	指導課長	小林 幹夫
主任指導主事	肝付 俊朗	統括指導主事	児玉 大祐
指導主事	西川 さやか	指導主事	今宮 直樹
指導主事	伊東 悌夫	指導主事	山室 誠也
指導主事(併任)	椿田 克之	指導主事(併任)	川元 泰史
指導主事(併任)	拝原 茂行	学校経営指導担当	村井 恒
学校経営指導担当	中村 佳美	学校経営指導担当	木村 勉

東京都多摩地区教育推進委員会
第16次計画(通算第37年次)報告書

平成23年2月
編集・発行
〒190-8543 東京都立川市錦町6-3-1
TEL 042-524-7137 FAX 042-528-0985
印刷 明誠企画株式会社

登録番号 22(4)

この報告書は、東京都多摩教育事務所のWebページに掲載しています。御活用ください。
URL <http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp>

授業改善



学習習慣

R70

古紙配合率70%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています